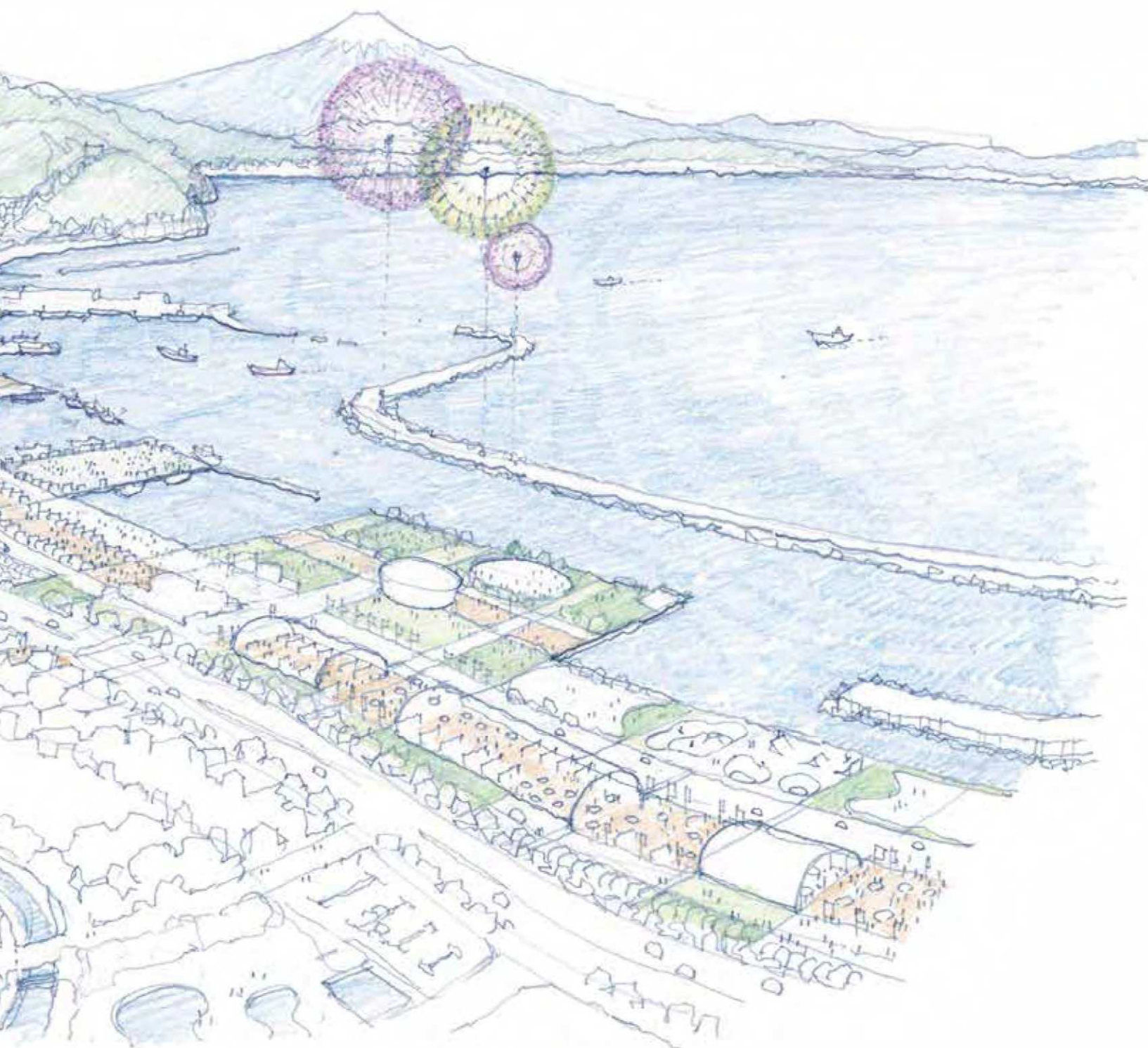


焼津未来デザイン



令和7年3月 焼津市

目次

I	はじめに	1
1	策定趣旨や位置づけなど	2
2	焼津未来デザインの概要	3
3	焼津未来デザインの構成	4
II	グランドデザイン	5
1	グランドデザインについて	6
2	焼津市の理想像	7
3	まちづくりの方向性	10
4	4つの未来デザイン	23
III	地域未来デザイン	28
1	地域未来デザインについて	29
2	地域未来デザインの内容	30
IV	焼津未来デザインの実現に向けて	70
1	焼津未来デザインの実現に向けて	71

I はじめに



1 策定趣旨や位置づけなど

1) 策定の背景と目的

本市では、2017 年（平成 29 年）に、焼津市の将来ビジョンを示した焼津ダイヤモンド構想を策定するとともに、2018 年（平成 30 年）に、将来都市像を「やさしさ 愛しさ いいもの いっぱい 世界へ広げる水産文化都市 Y A I Z U」として掲げた第 6 次焼津市総合計画及びその実現に向けた第 1 期基本計画（焼津未来共創プラン 2018）を策定し、市民と共に様々な施策を総合的に推進してきました。

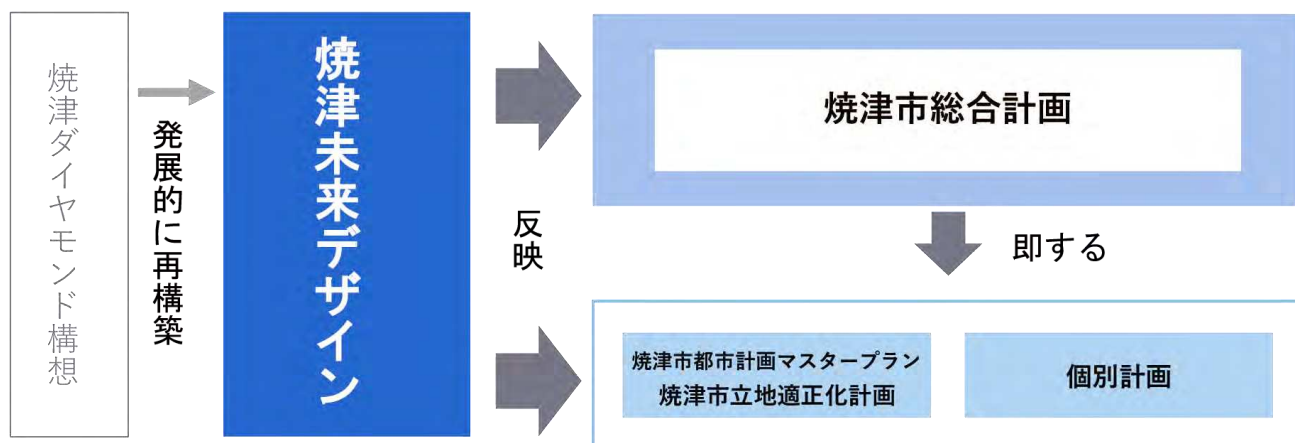
2022 年（令和 4 年）には、将来都市像の実現に向け、第 2 期基本計画（焼津未来共創プラン 2022）を策定し、急速な社会経済情勢の変化に対応した今後のまちづくりにおける基本的な指針とすることとしました。

人口減少・少子高齢化の進行や Society5.0 を見据えたデジタル化の急速な進展等により社会が大きく変化していることに加え、新たな働き方の浸透やビジネスモデルの変容等、今後も社会経済構造や人々の行動、意識・価値観は大きく変化していくことが予測されます。

このような状況を踏まえ、これまでと同様に、市民が住み慣れた地域で生きがいをもち、安心して生活できるよう、全市的視点から変化に対応した新たな都市づくりが求められており、そのための都市構造やまちづくりのあり方等、未来の焼津市の姿を描くことが必要です。

未来を見据えて、時代の変化に対応した持続可能な都市経営の実現により、まちの活力の維持・向上を図りつつ、市民の暮らしを守り、市民が将来にわたって夢と希望をもって本市で暮らし続けていくために、焼津ダイヤモンド構想を発展的に再構築した「焼津未来デザイン」を策定します。

2) 計画の位置づけ



3) 目標年次

焼津未来デザインの目標年次は、2044 年（令和 26 年）として設定します。

また、焼津未来デザインの内容については、社会情勢の変化や施策の実施状況に適切に対応するために、総合計画の策定・見直しに際して、各事業の進捗状況等を勘案しながら必要に応じて見直すこととします。

2 焼津未来デザインの概要

1) 焼津未来デザインとは

焼津未来デザインとは、未来の本市をとりまく社会状況等を予測し、本市が目指すべき「まちの姿や状態」、「人の生活の様子」等を未来像として示し、市民・事業者・行政等、本市に関わる全ての者が、平等に共有するためのものです。

概ね 20 年後の未来像を示すことを主眼としていることから、総合計画基本計画の策定等、今後の本市のまちづくりに関する施策展開においては、本書で示す未来像を具現化することを目指して、施策や取組を検討・実施することとします。

焼津未来デザインは、市域全体の未来像を示す「グランドデザイン」と、市内 9 地域ごとの未来像を示す「地域未来デザイン」で構成します。

2) 策定の視点

●分野横断的に検討し、一体的なまちづくりの推進に寄与します

既存の各種計画との整合を図りつつ、現況及び未来予測の的確な把握と、分野横断的な検討を踏まえ、“焼津らしさ”を活かしたまちのあるべき姿と方策を示し、市民・事業者・行政等が一体となりまちづくりを推進していける指針とします。

●社会の変化へ対応した指針とします

人口減少・少子高齢化の進行や Society5.0 を見据えたデジタル化の急速な進展、新たな働き方の浸透やビジネスモデルの変容等、急速に変化する社会経済構造や人々の行動、意識・価値観等を把握し、対応します。

●焼津市の未来予測に基づく指針とします

全国的な未来予測及び現在推進している施策等から、未来予測を把握し、反映します。

3 焼津未来デザインの構成

焼津未来デザインは、市域全体の未来像を示す「グランドデザイン」と、市内9地域ごとの未来像を示す「地域未来デザイン」で構成されます。

また、最後に「焼津未来デザインの実現に向けて」の章を設け、本書の実現のための基本的考え方を取りまとめます。

焼津未来デザインの構成

〔1〕 グランドデザイン

1 焼津市の理想像

- ・新たな魅力が生み出され、多様な交流が広がり、笑顔とにぎわいがあふれている
- ・コンパクトで安全なまちが形成され、みんなが安心して快適に暮らしている
- ・誰もが地域の中で活躍し、生きがいや楽しみをもち、いきいきと暮らしている
- ・魚や温泉、自然などを活かした産業が活性化し、ずっと働き続け、暮らしていける

2 まちづくりの方向性

- ・にぎわいと活力ある拠点形成 <拠点>
- ・持続可能なコミュニティの形成 <地域>
- ・誰もが住み続けられる生活基盤の形成 <ゾーン>

3 4つの未来デザイン

- ・にぎわいと活力ある拠点連携による住む・働く・交流の実現
- ・自然と歴史・文化が息づく地域づくりと観光交流の実現
- ・誰もが快適に、育て、働き、暮らし続けられるまちの実現
- ・そら・うみ・りくのつながりと産業拠点を活かした新たな活力の創出

〔2〕 地域未来デザイン

1 東益津地域	4 豊田地域	7 大富地域
2 焼津地域	5 小川地域	8 和田地域
3 大村地域	6 港地域	9 大井川地域

〔3〕 焼津未来デザインの実現に向けて

II グランドデザイン



1 グランドデザインについて

グランドデザインとは、概ね 20 年後の市域全体の理想の姿や様子を取りまとめるとともに、その実現のためのまちづくりの方向性と具体的な取組例等を整理し、その総括として未来デザインイメージをまとめたうえで、未来のまちづくりの 4 つのテーマと関連エリアで構成される「4 つの未来デザイン」を展開したものです。

< グランドデザイン >

< 焼津市の理想像 >

- 1) 市域の理想像の考え方
- 2) 理想像



< まちづくりの方向性 >

- 1) まちづくりの方向性の考え方
- 2) まちづくりの方向性の内容と取組例
 - (1) にぎわいと活力ある拠点形成 < 拠点 >
 - (2) 持続可能なコミュニティの形成 < 地域 >
 - (3) 誰もが住み続けられる生活基盤の形成 < ゾーン >
- 3) 拠点・地域・ゾーンの関係



■ 未来デザインイメージ

< 4 つの未来デザイン >

- 1) にぎわいと活力ある拠点連携による住む・働く・交流の実現
- 2) 自然と歴史・文化が息づく地域づくりと観光交流の実現
- 3) 誰もが快適に、育て、働き、暮らし続けられるまちの実現
- 4) そら・うみ・りくのつながりと産業拠点を活かした新たな活力の創出

2 焼津市の理想像

1) 市域の理想像の考え方

未来の本市をとりまく社会状況等を踏まえると、本市が重要視すべき理想像として、次の4つが整理できます。

< 未来予測を踏まえたまちづくりの課題 >

A 基盤整備による成長実現

B 人口減少に適応した都市構造の構築

C 持続的な成長の実現

D 多様な暮らし方・働き方の実現

E デジタル技術の活用による
地域課題の解決

F 将来を見据えた
公共施設の計画的な管理

G 自然災害への対応

H 持続可能な開発目標 (SDGs) の達成
に向けた分野横断的な取組の推進

I 環境保全への取組強化

J 地域コミュニティの維持

K 地域産業の維持・発展

L 地域資源を活かした観光振興

< 理想像 >

① 新たな魅力が生み出され、
多様な交流が広がり、
笑顔とにぎわいがあふれている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

② コンパクトで安全なまちが
形成され、みんなが安心して
快適に暮らしている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

③ 誰もが地域の中で活躍し、
生きがいや楽しみをもち、
いきいきと暮らしている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

④ 魚や温泉、自然などを
活かした産業が活性化し、
ずっと働き続け、暮らしていける

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

2) 理想像

「1) 市域の理想像の考え方」で整理された4つを市域の理想像として位置づけます。

理想像の具体的な内容は、次のとおりです。

①新たな魅力が生み出され、多様な交流が広がり、 笑顔とにぎわいがあふれている

- ・JR 焼津駅や焼津 IC、大井川焼津藤枝 SIC 等の交通結節点を活かし、市内各所で見られた空き家や低未利用地の官民連携による積極的な活用により、本市の新たな魅力となる拠点が形成され、ヒト・モノ・コトが集まり交流人口が増加しています。
- ・水産業のさらなる発展により、豊富な水産物が本市の知名度をさらに高めています。また、豊かな自然環境と東名高速道路や富士山静岡空港等の優れたアクセス性と相まって、二地域居住等の多様なライフスタイルが浸透したことで、新たな労働市場の開拓や働き方の展開が進み、働き・暮らす場として移住定住者が増加しています。
- ・多種多様な業種でDXが進んだことで、スマートシティが実現し、市民サービスの質や利便性が大きく向上するなど、デジタルによる豊かで快適な新しい暮らしが実現しています。

②コンパクトで安全なまちが形成され、 みんなが安心して快適に暮らしている

- ・都市機能や居住機能等の集積と同時に、拠点間を結ぶ公共交通を核とした人の移動において、自動運転等の先進モビリティや MaaS 等の技術活用が進みました。利便性が高い移動手段が構築され、誰もが快適に移動できるまちが形成されています。
- ・焼津漁港や海岸沿いの防潮堤整備等、地震・津波に関するハード整備は完了し、デジタル技術やオープンデータを活用した防災・減災まちづくりが新たに進められ、安全で安心して暮らせる基盤が整っています。
- ・地域の拠点をベースとして強固で新たな地域コミュニティが形成されるとともに、地域主導で地域課題の解決や自主防災力の強化が進められ、安全で快適な暮らしが守られています。

③誰もが地域の中で活躍し、生きがいや楽しみをもち、 いきいきと暮らしている

- ・多様な子育てニーズに対応できる仕組みや地域内で子どもを育てる体制が充実し、子育てがしやすいまちとしての地位が確立され、これらの魅力がもととなり、本市で生まれ育った若者や子育て世代のUターン者、移住者が増加し、活気あるまちになっています。
- ・外国につながる市民や障がい者、高齢者等、誰もがいつまでも自分らしく、いきいきと地域社会の一員として活躍できる仕組みや、多世代交流の機会があり、愛着をもち住み続ける市民が増えています。
- ・新たなコミュニティの形成により地域主導の活動が活発化し、地域内で支え合いと協働の仕組みが構築されるとともに、誰もが地域のなかでつながりをもち安心していきいきと暮らすことができます。
- ・スポーツや文化等を活かした新たなコンテンツにより、市民や来訪者等、誰もが楽しめる場が創出され、心身の健康が促進されるとともに、市内外の交流が活発化しています。

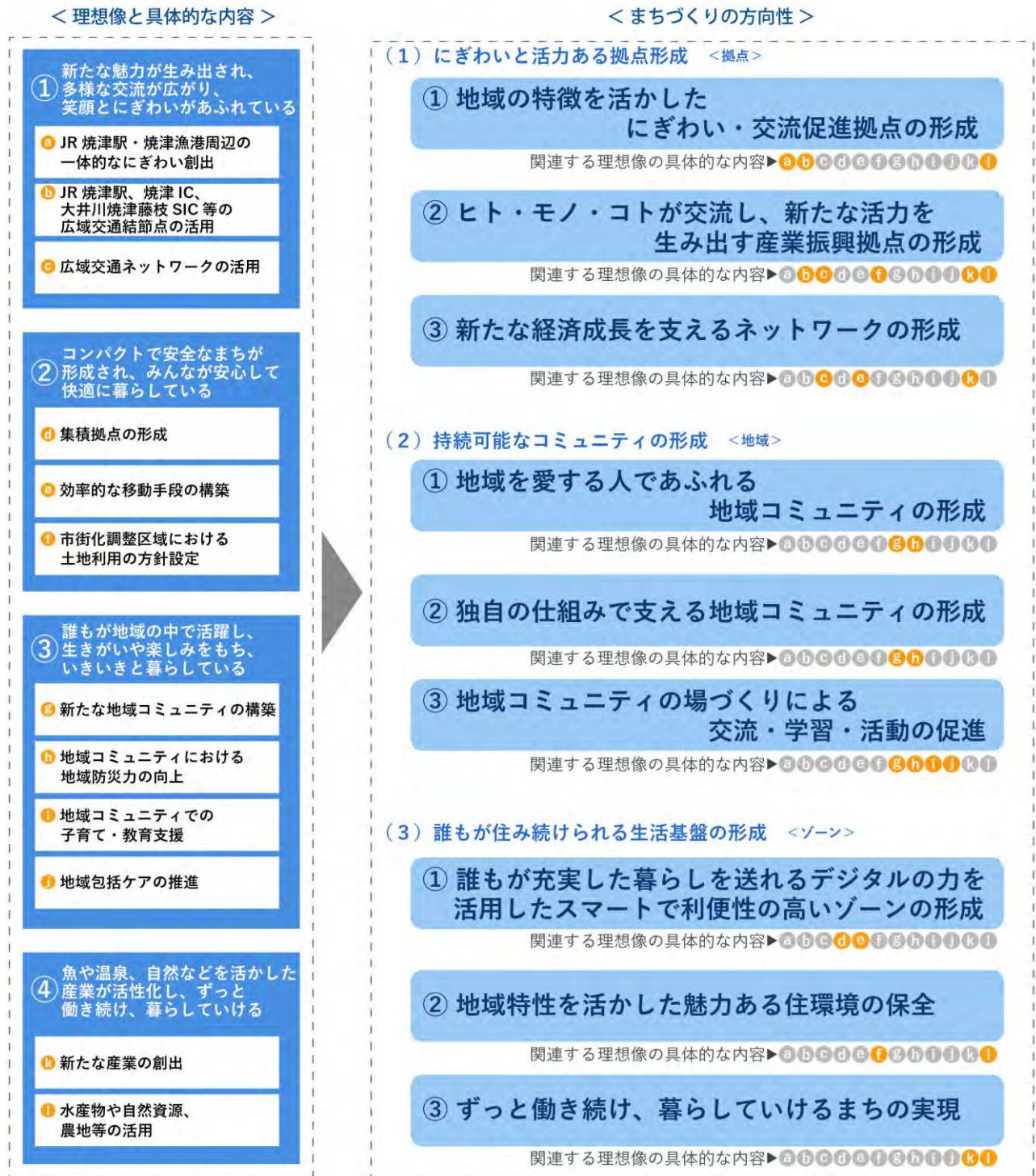
④魚や温泉、自然などを活かした産業が活性化し、 ずっと働き続け、暮らしていける

- ・焼津ならではの水産業及び農業におけるDXや担い手育成が進み、基幹産業として安定的な経営が行われているとともに、デジタル技術活用による効率的な漁獲や生産、また販路拡大やブランド力の強化等により、国内外で本市の産業の強さが認知され、発展を遂げています。
- ・焼津漁港等で水揚げされる魚や市内で生産される農作物等をはじめとする魅力ある「食」や「焼津温泉」、また、高草山等の「緑」、大井川等の数多くの河川をはじめとする「水」等、本市の強みを活かした観光・商業振興策の積極的展開により、交流人口の増加や地域経済の発展、雇用創出といった好循環が生まれています。
- ・交通結節点等から市内全域が5キロ圏内であるという他自治体にはない優位性が積極的に活かされ、職住近接の土地利用が進み、新たな産業が創出されています。

3 まちづくりの方向性

1) まちづくりの方向性の考え方

理想像及び理想像の具体的な内容から、次の9つがまちづくりの方向性として整理でき、それらをさらに体系区分することにより、3つに分類することができます。グランドデザインにおいては、ここで整理された3分類9方針を、まちづくりの方向性として位置づけます。



2) まちづくりの方向性の内容と取組例

(1) にぎわいと活力ある拠点形成 <拠点> _____

活力を生む地域資源や交通結節点を「拠点」として位置づけ、水産物や焼津温泉、歴史・文化や自然等の本市の特徴的な魅力や、そら・うみ・りくのあらゆるネットワークを有する本市の強みを活かして、にぎわい創出や産業振興を図ります。

①地域の特徴を活かしたにぎわい・交流促進拠点の形成

【JR 焼津駅・焼津漁港周辺におけるにぎわい拠点の形成】

- ・ JR 焼津駅や焼津漁港周辺においては、新鮮な水産物や焼津温泉、港町特有の街並み景観を有する浜通り等、焼津ならではの地域資源を活かして、本市に訪れ、滞在したくなるように拠点としての魅力を向上させ、観光振興やにぎわい創出を図ります。

【JR 西焼津駅周辺におけるにぎわい拠点の形成】

- ・ JR 西焼津駅周辺においては、駅周辺に広がる駐車場等の低未利用地を活用した開発事業を進め、商業施設等を集積することにより、駅利用者及び買い物客等の往来を促し、にぎわい創出を図ります。

【高草山・浜当目一帯における交流促進拠点の形成】

- ・ 緑豊かな高草山や浜当目海岸、重要伝統的建造物群保存地区である花沢の里等、本市で受け継がれてきた自然環境や歴史・文化は、適切に保全・活用を図ることで、関係人口の増加や観光交流の促進を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・ 焼津特有の食や焼津温泉を活かしたにぎわい創出（JR 焼津駅、焼津漁港）
- ・ JR 西焼津駅周辺の低未利用地を活用したにぎわい創出（JR 西焼津駅）
- ・ 自然、歴史・文化を味わう観光交流の振興（高草山、浜当目海岸、花沢の里）

等

②ヒト・モノ・コトが交流し、新たな活力を生み出す産業振興拠点の形成

【産業振興拠点の形成】

- ・ 本市は首都圏・関西圏の中間地に位置し、東名高速道路や JR 東海道本線、港や隣接する富士山静岡空港等、そら・うみ・りくのあらゆる交通ネットワークを有する立地優位性を活かし、交通結節点である JR 焼津駅、焼津 IC、大井川焼津藤枝 SIC 周辺、焼津漁港や大井川港周辺においては、新たな産業育成並びに地域特性を活かした企業誘致を進めることで、地域経済に活力をもたらし、国内外のヒト・モノ・コトが交流するまちを目指します。

II グランドデザイン

【幹線道路沿線の活用】

- ・国道 150 号をはじめとする幹線道路沿線については、周辺の土地利用状況に配慮しながら、広域交通ネットワークを活かした新たな土地利用を進め、国内外のヒト・モノ・コトの交流を促す目的地の形成により、にぎわい創出及び交流促進を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・駅舎及び駅前広場の再整備の推進（JR 焼津駅）
- ・新たな商業施設等の立地による産業・交流の拡大（焼津 IC 周辺）
- ・農業・自然環境と共存した産業振興拠点の形成（大井川焼津藤枝 SIC 周辺）
- ・国内外とのさらなるネットワーク拡大による産業振興拠点の形成（焼津漁港、大井川港）
- ・東名高速道路及び主要幹線道路等を活用した広域連携・交流促進
- ・農業への配慮を踏まえた新たな産業用地等の確保

等

③新たな経済成長を支えるネットワークの形成

【情報ネットワークの形成】

- ・デジタル技術を活用した情報ネットワークの形成により、製造業や物流等における業務効率化や販路の拡大、または効果的な情報発信を推進し、産業振興を図ります。

【産官学の連携推進】

- ・事業者や教育・研究機関等との分野横断的な連携を推進し、新産業の育成や地域資源の高付加価値化等を積極的に進めることで、新たな経済成長を支える仕組みを構築します。

【拠点周辺・拠点間・主な公共交通結節点間の交通ネットワークの形成】

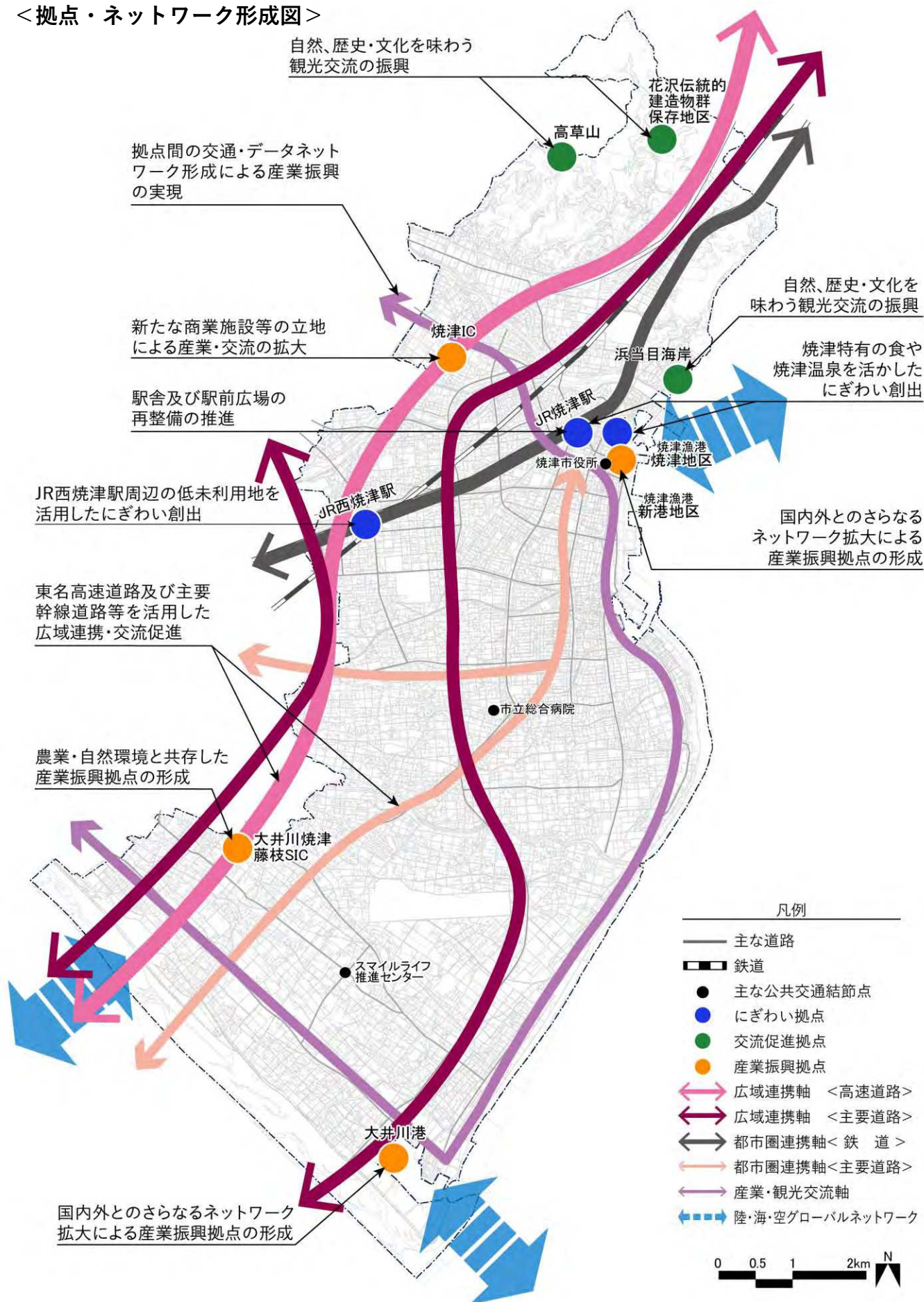
- ・拠点周辺及び拠点間、主な公共交通結節点間においては、先端技術を活かしたモビリティシステム等を複合的に導入するなど、誰もが安全で快適に移動できる交通ネットワークを形成します。

実現に向けた取組の例

- ・デジタル技術を活用した産業間情報ネットワーク形成による産業の効率化の推進
- ・産官学の連携体制構築による新産業の育成
- ・パーソナルデータの活用による効果的な情報等の提供
- ・拠点間の交通・データネットワーク形成による産業振興の実現
- ・先端技術を活かしたモビリティシステムの導入

等

<拠点・ネットワーク形成図>



(2) 持続可能なコミュニティの形成 <地域> _____

地域住民や自治会、市民活動団体や事業者、行政等の多様な主体の協働により、地域交流センターを中心として新たな地域コミュニティの人材育成や仕組みづくり、場づくり等に取り組み、地域コミュニティが主体となった地域課題の解決や、地域独自のまちづくり活動の促進を図ります。

①地域を愛する人であふれる地域コミュニティの形成

【地域づくりの人材育成】

- ・地域コミュニティを形成するための基礎づくりとして、研修会等を計画的かつ段階的に開催し、地域活動の担い手づくりや地域コーディネーターの育成、あるいは地域の安全を守る地域防災リーダーの育成等を進めていきます。
- ・地域の中で、次世代のまちづくりの担い手や地域リーダーの育成を推進し、地域を愛する人であふれる地域コミュニティの形成に繋げていきます。

実現に向けた取組の例

- ・研修会や講座等の開催による地域コーディネーター及び地域防災リーダーの育成
 - ・コミュニティインフォメーションを活用した防災情報ネットワークの構築
- 等

②独自の仕組みで支える地域コミュニティの形成

【地域コミュニティの仕組みづくり】

- ・地域内の多様な主体が連携し、協働して地域課題に対応していくために、地域で話し合い、意思決定する仕組み、さらに地域づくりのための具体的な取組を進める仕組み等、地域特性にあわせた地域独自の仕組みを構築し、地域住民が支える地域コミュニティの形成を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・地域独自の意思決定や地域づくりの取組等の仕組みの構築
 - ・地域住民や各種団体、事業者等の協働ネットワーク形成
- 等

③地域コミュニティの場づくりによる交流・学習・活動の促進

【地域交流センターの活用】

- ・「人生 100 年時代」に向けて、高齢者から若者まで、生涯にわたる学習機会や活躍の場を創出することで、元気に安心して暮らし続けられる地域づくりを促進します。
- ・活気ある地域コミュニティの形成のために、市内 9 地域に地域コミュニティの交流拠点、学習拠点、活動拠点となる「地域交流センター」を積極的に活用します。また、地域交流センターの連携拠点となる「スマイルライフ推進センター」を核に、各地域交流センターにおける、健康維持や生きがいづくり等の活動をサポートします。

【地域交流センターの機能向上】

- ・地域交流センターには、コミュニティインフォメーションやフリースペース、オンライン端末等を設置し、地域独自の多様な活動展開を促進します。また、子育て支援、新元気世代の活動支援、高齢者支援、または地域防災力の向上等、多様な地域課題に対応した活動拠点となるよう位置づけ、子どもから高齢者まで、誰もが集える場づくりを行います。
- ・誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるように、各地域の地域交流センターを中心として、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築等を行います。また、高齢化が進むことから、地域包括ケアシステムのさらなる推進による支援体制の強化を図るとともに、地域交流センターで高齢者が気軽に集まれる場づくり等を行い、地域内で見守り合いにつながる取組を推進します。

実現に向けた取組の例

- ・「人生 100 年時代」に向けた、生涯にわたる学習機会・活躍の場の創出
- ・スマイルライフ推進センター及び地域交流センターにおけるサークル活動や市民講座等の交流・学びの機会の創出
- ・地域の情報共有におけるコミュニティインフォメーションの活用
- ・地域フリースペースの活用による交流機会の創出
- ・地域コミュニティと地域ケア会議の連携による共助体制の構築

等

II グランドデザイン

<地域コミュニティ形成図>



（３）誰もが住み続けられる生活基盤の形成 <ゾーン>—————

未来に向けた持続可能なまちづくりを推進し、市民の生活をより充実したものにするために、デジタル技術の活用や都市機能の集積により、利便性の高い生活の実現及び公共交通ネットワークの形成を図りつつ、自然環境と調和した居住環境の維持や、誰でも働き続けられるまちの実現を図ることで、多様かつ豊かな暮らしを実現し、誰もがいつまでも住み続けられる生活基盤を形成します。

①誰もが充実した暮らしを送れるデジタルの力を活用したスマートで利便性の高いゾーンの形成

【都市拠点ゾーンの形成】

- ・本市の中心市街地である JR 焼津駅の周辺を、都市拠点ゾーンとして位置づけます。ゾーン内では、行政施設や子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設等の都市機能を集積させるとともに、居住機能を配置することで、多世代を惹きつける「まちなか居住」の促進を図ります。また、円滑な移動環境を整えた公共交通ネットワークを形成します。

【地域拠点ゾーンの形成】

- ・都市機能の集積状況や交通結節点等を踏まえて、JR 西焼津駅、市立総合病院、スマイルライフ推進センターの周辺を地域拠点ゾーンとして位置づけます。ゾーン内では、行政施設や子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設等を維持・充実させるとともに、低未利用地等を活用して、新たな住宅地を配置するなど居住機能の向上を図ります。また、円滑な移動環境を整えた公共交通ネットワークを形成します。

【スマート化の推進】

- ・各ゾーンにおいては、公共交通の運行や各種情報提供等、様々な場面においてデジタル技術を活用してスマート化を図ることで、利便性が高く安全で、充実した暮らしを送れるまちづくりを推進します。

【人口密度の維持】

- ・市街化区域内の主に住居系土地利用や商業系土地利用の範囲においては、人口密度を維持することにより、生活サービスや地域コミュニティの持続的な確保を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・都市拠点ゾーンの形成（JR 焼津駅周辺）
- ・地域拠点ゾーンの形成（JR 西焼津駅周辺、市立総合病院周辺、スマイルライフ推進センター周辺）
- ・ゾーン内におけるデジタル技術の活用による利便性・安全性の向上
- ・技術活用による市内循環公共交通の運行

等

②地域特性を活かした魅力ある住環境の保全

【市街地活性化ゾーンにおける良好な市街地環境の創出】

- ・都市拠点ゾーンや地域拠点ゾーンの周辺部や近くに位置する市街地活性化ゾーンについては、河川や社寺林、公園等の身近な自然環境の保全を図りつつ、都市機能の維持や商業・業務地の適切な誘導等により、住環境の維持や就業地の確保に努め、良好な市街地環境を創出します。

【田園集落ゾーンにおける落ち着いた住環境の保全】

- ・農地が広がり、河川や桜並木等がみられる田園集落ゾーンについては、田園風景と共存した落ち着いた住環境を保全するとともに、地域特性を活かした新たな土地利用や産業拠点の形成を検討し、住環境と自然環境、産業の調和を実現します。

【自然環境活用ゾーンにおける自然と調和した住環境の保全】

- ・高草山や浜当目海岸等を含む自然環境活用ゾーンについては、自然と調和した住環境を保全するとともに、地域固有の資源として活用することにより、交流が生まれる豊かな暮らしを実現します。

【農地の維持・活用】

- ・優良農地については、担い手農業者への農地の集約化や、民間事業者と協働した新たな農業振興等、田園風景を保全するとともに、遊休農地は農業従事者とのマッチングや田園住宅等、地域に適した活用を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・市街地活性化ゾーンにおける良好な市街地環境の創出
- ・田園集落ゾーンにおける落ち着いた住環境の保全
- ・田園集落ゾーンにおける新たな産業用地の確保の検討
- ・自然環境活用ゾーンにおける自然と調和した住環境の保全
- ・優良農地を活かした生産効率の高い農業基盤の形成
- ・田園風景と調和したゆとりある住宅の確保

等

③ずっと働き続け、暮らしていけるまちの実現

【デジタル技術の活用】

- ・デジタル技術の積極的な活用による場所・時間・言語・年齢等に捉われない働き方の浸透や、本市の特性や自然環境等を活かした新たな産業拠点の形成等による地元雇用の創出により、誰もが働きやすく、本市での仕事に魅力を感じ、いきいきと活躍し続けられるまちを実現します。

実現に向けた取組の例

- ・ ICT や AI の活用による個々の強みを活かせる多様な働き方の実現
- ・ 新たな地元雇用の創出による移住定住の促進
- ・ 地域と調和が図れた企業誘致の推進による地元雇用の創出

等

II グランドデザイン

<生活基盤形成図>

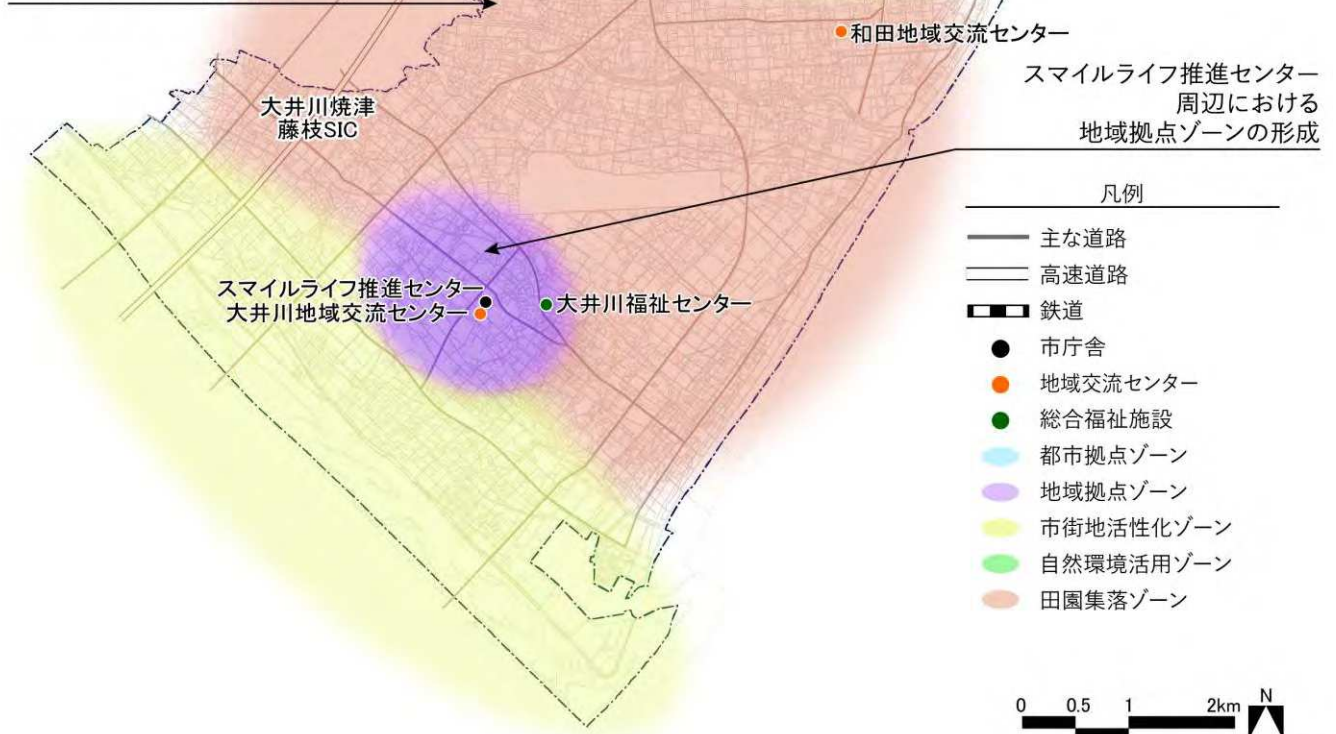
自然環境活用ゾーンにおける
自然と調和した住環境の保全

市街地活性化ゾーンにおける
良好な市街地環境の創出

JR西焼津駅周辺における
地域拠点ゾーンの形成

市立総合病院周辺における
地域拠点ゾーンの形成

田園集落ゾーンにおける
落ち着いた住環境の保全

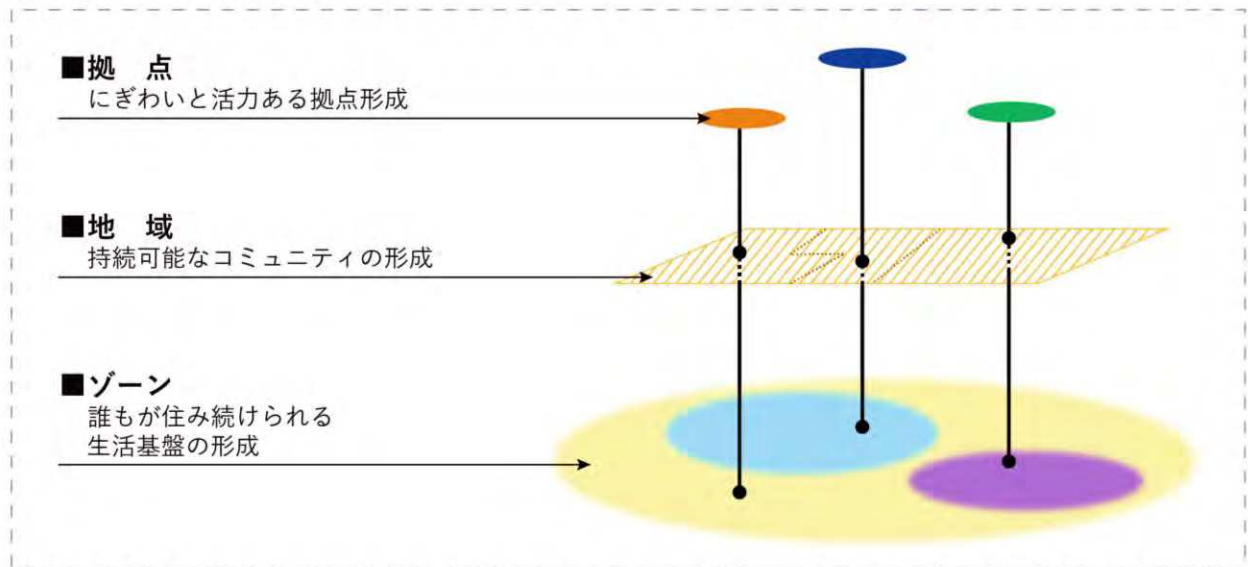


3) 拠点・地域・ゾーンの関係

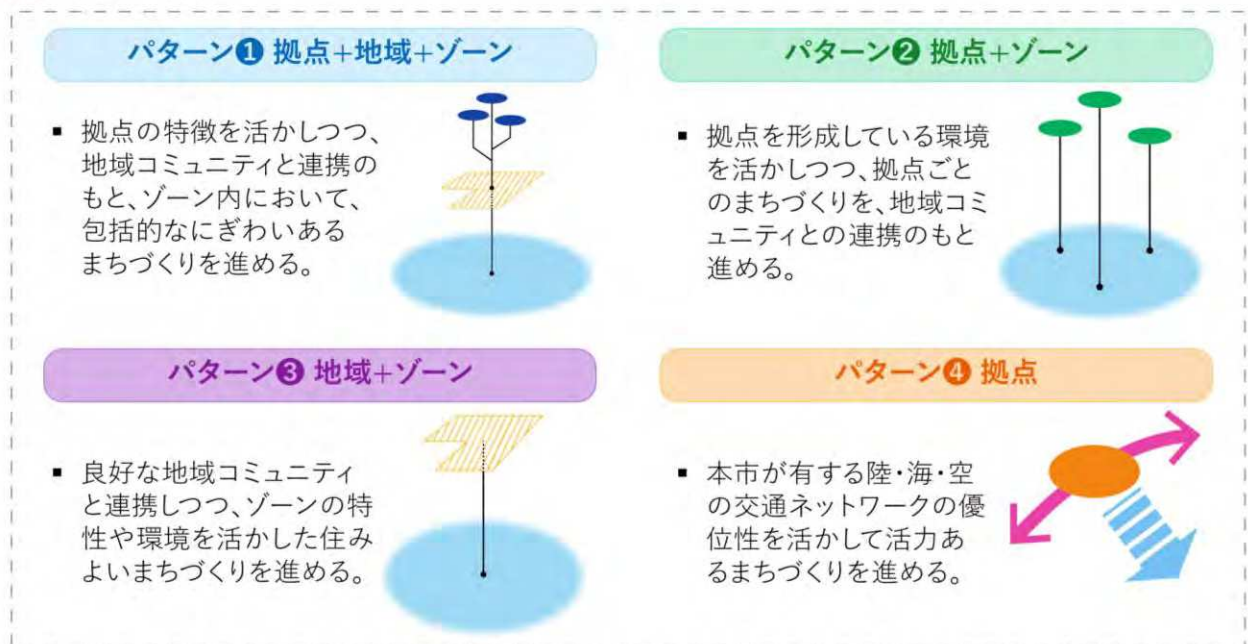
「2) まちづくりの方向性の内容と取組例」で示した拠点・地域・ゾーンは、関連付けできる関係性を持つ場所があり、それらについては拠点・地域・ゾーンのそれぞれのまちづくりの方向性を踏まえて、総合的かつ計画的にまちづくりを進めていく必要があります。

拠点・地域・ゾーンの関係性は、次のように整理することができ、4つのパターンに分類できます。

< 拠点・地域・ゾーンの基本的関係 >



< 関係性のパターン >



以上の4つのパターン毎に、該当する拠点・地域・ゾーンの特性やまちづくりの方向性を踏まえ、4つのテーマを整理したものを、「未来デザインイメージ」としてまとめます。パターンと場所の関係性はあくまで現時点におけるものであり、今後の社会情勢の変化等に合わせて、必要に応じて見直すこととします。

■未来デザインイメージ

< まちづくりの方向性 >

にぎわいと活力ある 拠点形成 <拠点>

- ①地域の特徴を活かした
にぎわい・交流促進拠点の形成
- ②ヒト・モノ・コトが交流し、
新たな活力を生み出す
産業振興拠点の形成
- ③新たな経済成長を支える
ネットワークの形成

持続可能な コミュニティの形成 <地域>

- ①地域を愛する人であふれる
地域コミュニティの形成
- ②独自の仕組みで支える
地域コミュニティの形成
- ③地域コミュニティの場づくりによる
交流・学習・活動の促進

誰もが住み続けられる 生活基盤の形成 <ゾーン>

- ①誰もが充実した暮らしを送れる
デジタルの力を活用したスマート
で利便性の高いゾーンの形成
- ②地域特性を活かした
魅力ある住環境の保全
- ③ずっと働き続け、
暮らしていけるまちの実現

< 実現に向けた取組の例 >

自然、歴史・文化を味わう観光交流の振興

焼津特有の食や焼津温泉を活かしたにぎわい創出

新たな商業施設等の立地による産業・交流の拡大

JR西焼津駅周辺の低未利用地を
活用したにぎわい創出

駅舎及び駅前広場の再整備の推進

農業・自然環境と共存した
産業振興拠点の形成

国内外とのさらなる
ネットワーク拡大による
産業振興拠点の形成

市内9地域の「地域交流センター」の活用

地域交流センターの機能向上

凡例 ○ 地域交流センター

自然と調和した住環境の保全

良好な市街地環境の創出

都市拠点ゾーンの形成

落ち着きある住環境の保全

地域拠点ゾーンの形成

< 4つの未来デザイン >

① にぎわいと活力ある拠点連携による 住む・働く・交流の実現

拠点や地域資源の連携により、エリア一体で活力が創出されるとともに、生活利便性と暮らしの魅力が向上したことから、多くの人が住み、訪れ、にぎわいがあふれています

関連エリア
・JR焼津駅・焼津漁港周辺
・JR西焼津駅周辺

② 自然と歴史・文化が息づく 地域づくりと観光交流の実現

自然資源や歴史・文化資源の活用により観光振興が実現するとともに、地域コミュニティ内で、貴重な地域資源や伝統行事等の保全・継承が行われています

関連エリア
・高草山周辺
・浜当目海岸周辺
・花沢の里周辺

③ 誰もが快適に、育て、働き、 暮らし続けられるまちの実現

ゾーンを中心として都市機能等が充実するとともに、市内9地区の地域交流センターを中心とした基盤整備が進み、誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らしています

関連エリア
・市立総合病院周辺
・スマイルライフ推進センター周辺

④ そら・うみ・りくのつながりと 産業拠点を活かした新たな活力の創出

あらゆる広域交通ネットワークを活かして、新たな企業誘致や施設整備、新規産業の発展が進み、国内外から多くの人が訪れて活力があふれています

関連エリア
・焼津IC周辺
・大井川焼津藤枝SIC周辺
・大井川港周辺

4 4つの未来デザイン

4つの未来デザインとは、まちづくりの方向性と実現に向けた取組の例から、総合的かつ計画的にまちづくりを進めるために導き出した4つのテーマのことです。各未来デザインには、関連するエリアが位置づけられており、合計10のエリアがあります。

本章では、4つの未来デザイン毎に、未来デザインの方向性を示すとともに、関連エリアの未来像を描きます。また、必要に応じて、未来の姿を表す未来デザインスケッチを別冊に示します。

4つの未来デザインと関連エリアは、以下のとおりです。

◆4つの未来デザインと関連エリア

①にぎわいと活力ある拠点連携による 住む・働く・交流の実現

関連エリア：JR 焼津駅・焼津漁港周辺、JR 西焼津駅周辺

②自然と歴史・文化が息づく 地域づくりと観光交流の実現

関連エリア：高草山周辺、浜当目海岸周辺、花沢の里周辺

③誰もが快適に、育て、働き、 暮らし続けられるまちの実現

関連エリア：市立総合病院周辺、スマイルライフ推進センター周辺

④そら・うみ・りくのつながりと 産業拠点を活かした新たな活力の創出

関連エリア：焼津 IC 周辺、大井川焼津藤枝 SIC 周辺、大井川港周辺

1) 4つの未来デザインの内容

① にぎわいと活力ある拠点連携による住む・働く・交流の実現

(1) 未来デザインの方向性

●拠点連携によるにぎわい・活力の創出

- ・にぎわい拠点や産業振興拠点、地域資源の連携により、交流人口や関係人口の増加を図りつつ、地域経済の循環や雇用創出につなげ、エリア一体で新たなにぎわいと活力を創出します。

●生活利便性と暮らしの魅力の向上

- ・エリア内に行政施設や子育て支援施設、商業施設等の都市機能や居住機能の集積を図るとともに、最先端の技術を活かした公共交通システムの導入等を進めます。これらの取組により、生活利便性と暮らしの魅力を高めて、移住定住の増加を図りつつ、まちなか居住を促進します。
- ・地域交流センターを中心とした多様な活動の展開を促進し、交流や学びの機会を創出するとともに、住みよい良好なコミュニティの形成を図ります。

(2) 関連エリアの未来像

①JR 焼津駅・焼津漁港周辺

- ・JR 焼津駅を中心として、商業施設や子育て支援施設等、都市機能が集積したことで併せて、地域内を巡回する新たなモビリティの普及が進みました。生活利便性と併せて、防災力の向上が進み、まちなか居住の魅力が高まり、移住定住や二地域居住が増加しています。
- ・シンボル性と利便性の高い JR 焼津駅の再整備が完了しました。併せて、JR 焼津駅や駅前通り商店街、焼津漁港等の観光交流の拠点を中心として、歩行者ネットワークの形成や多様な移動手段が普及するとともに、地域資源の活用が進み、歩きたくなる魅力的なまちが形成され、観光客でにぎわっています。

②JR 西焼津駅周辺

- ・JR 西焼津駅周辺では、低未利用地の有効活用が進展しました。居住機能や商業施設、子育て施設や福祉施設等が集積して、暮らしの利便性が高まっています。また、歩きたくなるまちづくりが進み、放課後に談笑する高校生や大学生、子育て支援施設で遊ぶ子どもたち、まちなかで買い物を楽しむ家族連れ等、市内外から多くの人を訪れている様子が見られます。

② 自然と歴史・文化が息づく地域づくりと観光交流の実現

(1) 未来デザインの方向性

●自然資源や歴史・文化資源を活かした観光交流の促進

- ・高草山等の豊かな緑、瀬戸川等の河川や浜当目海岸、あるいは朝比奈川沿いの桜並木等の自然資源は、適切に保全を図るとともに、これらを活かしたハイキングコースや眺望等を活用して、観光振興を図ります。
- ・趣のある景観や社寺、伝統的な建築物等の歴史・文化資源は、保全を図るとともに、これらの資源をつなげた周遊ルートの設定や案内サイン等の整備、デジタル技術の活用等による観光情報の提供を行い、エリア内の周遊性を高めます。
- ・空き家や耕作放棄地の活用、自然資源や歴史・文化資源を活用した体験型コンテンツの開発等を行い、地域経済の活性化を図ります。

●歴史・文化や自然環境の継承

- ・豊かな自然や歴史・文化資源、地域で継承されている伝統行事等については、次世代の意見等を取り入れ観光交流に活かしつつ、後世へと継承するために保全活動等を展開します。

(2) 関連エリアの未来像

①高草山周辺

- ・高草山は、自然環境が適切に保全されています。併せて、周遊ルートの設定やハイキングコースの活用、SNS 等を通じた情報発信等により、高草山の特徴的な植生や笛吹段公園からの眺望等、豊かな自然環境を満喫するために、多くの人が訪れています。

②浜当目海岸周辺

- ・浜当目海岸周辺では、空き家をリノベーションした飲食店や民泊施設が増加するとともに、駐車場等も整備され、新たな観光地として脚光を浴びています。SNS 等を活用した情報発信が進み、市外へと魅力が発信されたことから、多くの人が観光に訪れています。

③花沢の里周辺

- ・花沢の里周辺では、歴史・文化的資源が適切に保全されるとともに、地域特有の街並みを活かしつつ、古民家を活用した飲食店等の開設、ビジターセンターを活用した物販やイベントが開催されています。また、地域の歴史に詳しい高齢者や新元気世代が、ボランティアガイドを務めたことにより、地域の魅力が広く知れ渡り、移住定住が増加しています。

③ 誰もが快適に、育て、働き、暮らし続けられるまちの実現

(1) 未来デザインの方向性

●安心して住み続けられるまちづくり

- ・子育て世帯や働き世代、高齢者や障がい者等、誰もが快適に暮らせるように、子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設、教育文化施設等の生活に必要な機能の充実を図ります。
- ・地域交流センターを中心として、多様な活動の展開を促進し、交流や学びの機会を創出するとともに、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築等を行うことで、住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを進めます。
- ・エリア内で最先端のデジタル技術を活かした公共交通システム等を導入することにより、地域交流センターやエリア間の公共交通ネットワークを充実させ、公共交通によるアクセスの利便性の向上を推進します。
- ・安全で、誰もが安心して暮らせるように、デジタル技術やオープンデータを活用した防災・減災のまちづくりを進めるとともに、地域交流センターを中心とした自主防災力の強化を図ります。

(2) 関連エリアの未来像

①市立総合病院周辺

- ・市立総合病院周辺は、生活利便施設や公共交通のさらなる充実が図られました。近隣の石津西公園の活用が進み、キッチンカーによる出店やマルシェ等、イベントが活発に開催されています。通院や日用品の買い物、またはイベント等で余暇を楽しむために、若者や高齢者、親子連れ等、地域内外から多くの人が訪れています。

②スマイルライフ推進センター周辺

- ・スマイルライフ推進センター周辺は、文化施設や子育て施設、福祉施設が集積しています。地域内外へ移動する公共交通の利便性が高まったことから、地域住民が気軽に集まり、市民生活の中心地として多様な活動や多世代交流が行われています。また、スマイルライフ推進センターは、健康増進や生きがいがいづくりに向けた活用が進み、新元気世代を中心として、多くの市民がいきいきと過ごしています。

④ そら・うみ・りくのつながりと

産業拠点を活かした新たな活力の創出

(1) 未来デザインの方向性

●ネットワークと地域の強みを活かした産業振興

- ・富士山静岡空港や港、東名高速道路等の「そら・うみ・りく」のあらゆる広域交通ネットワークを有するポテンシャルを活かして、国内外の市場を視野に入れた企業誘致や新産業の創出により、産業の活性化を図ります。
- ・産業拠点周辺においては、低未利用地等の有効活用を進め、商業・産業の集積による新たな産業振興を実現し、地域経済の活力を高めます。

(2) 関連エリアの未来像

①焼津 IC 周辺

- ・焼津 IC 周辺は、東名高速道路や焼津広幡線等の交通ネットワークを活かして、産業集積や新たな商業施設の立地が進みました。雇用の創出が進むとともに、魅力的な商業施設が増加したことから、県内外からの観光客や地域住民等、多くの人が訪れ、買い物や飲食を楽しんでいます。

②大井川焼津藤枝 SIC 周辺

- ・大井川焼津藤枝 SIC 周辺は、東名高速道路及び大井川港、富士山静岡空港等の国内外との交通ネットワークや、豊富な地下水を活かして、農業や自然環境と調和した新たな産業立地が進みました。国内外から多くの人が訪れ、新たな交流・にぎわいが創出されています。

③大井川港周辺

- ・大井川港周辺は、大井川焼津藤枝 SIC や国道 150 号等を活かし、国内外との交通ネットワークや連携が強化されました。クルーズ船の寄港や輸出入の拡大等が進み、あらゆる地域から人・モノが集まる港として発展したことで、新たな交流創出や、産業振興が進んでいます。

III 地域未来デザイン



1 地域未来デザインについて

地域未来デザインとは、地域特性から市域を9地域に区分し、その地域毎に現状や住民意向を踏まえて、将来に向けて魅力的で住みよい地域をデザインしてくための考え方を整理したものです。

本章では、地域毎に、地域未来デザインのコンセプト、未来イメージ像、さらに未来イメージのポイントとして、まちの姿、ヒトの姿を描いています。

9地域の区分は、次のとおりです。



2 地域未来デザインの内容

1) 東益津地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、東益津地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

高草山をベースとした 歴史文化・観光・産業の連携による 地域内外の新たな交流の創出

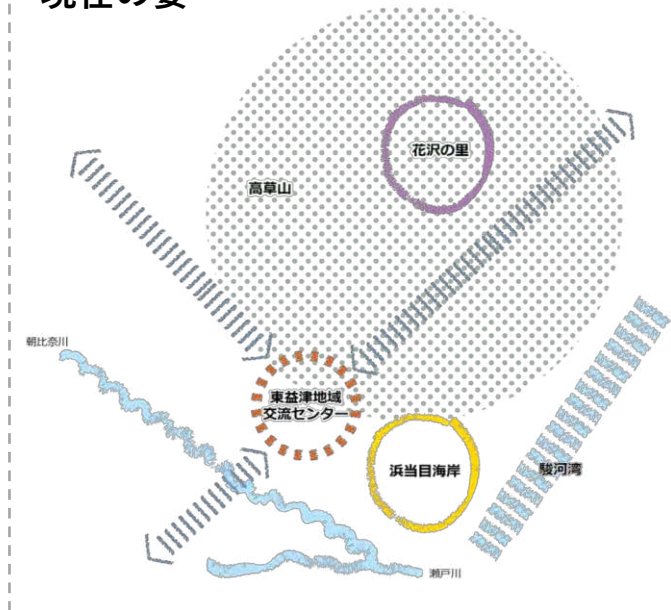
自然と歴史・文化の奥深い魅力を活かした観光交流の創出と、立地や交通ネットワークを活かした新たな産業が連携することにより、地域内外のヒト・モノ・コトの交流の拡大を図ります。



III 地域未来デザイン

《 東益津地域未来デザイン 》

現在の姿



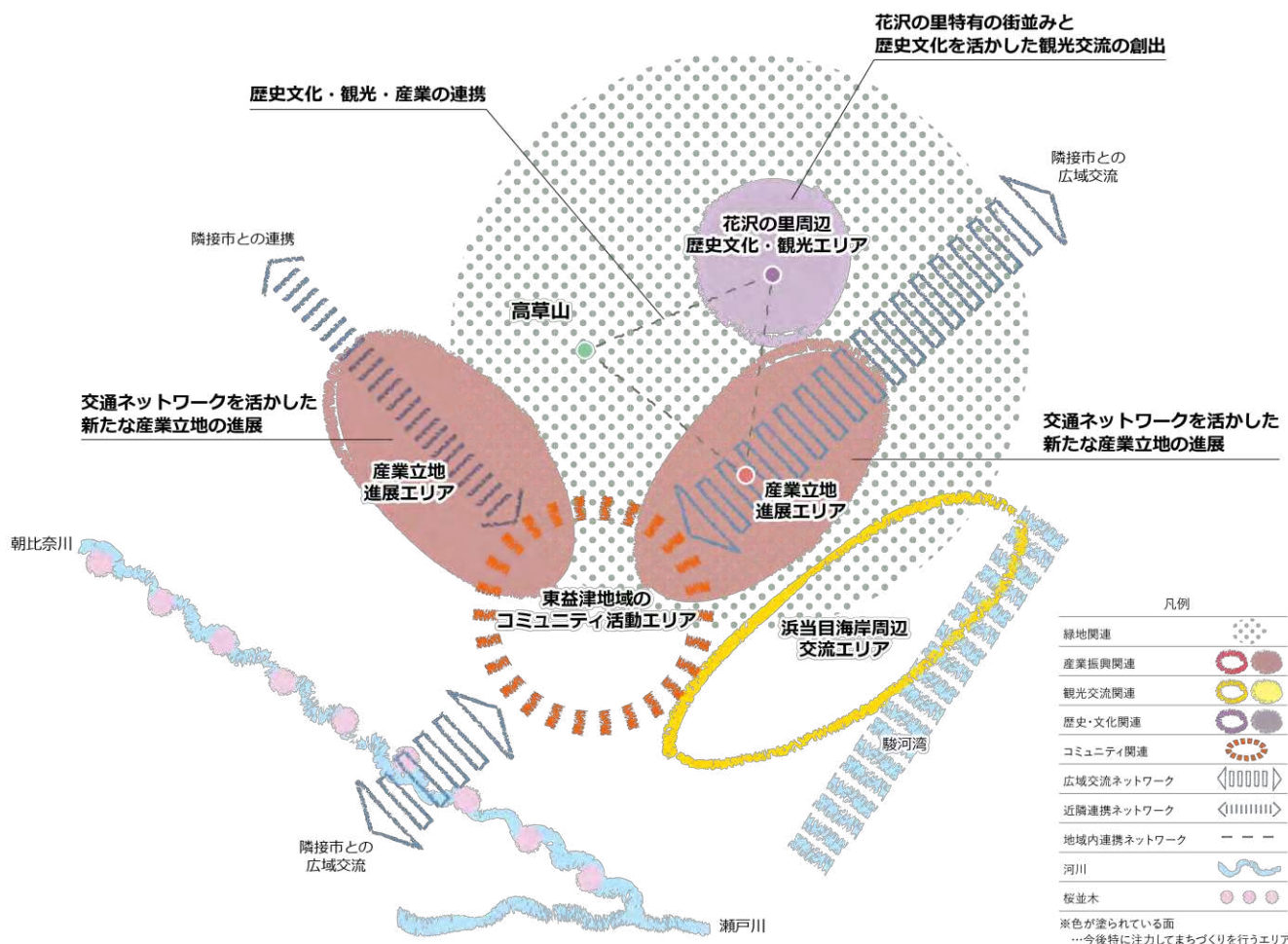
●地域の特徴である高草山と関わりながら、東益津地域のコミュニティ活動エリア、花沢の里周辺歴史文化・観光エリア、浜当目海岸周辺交流エリアの形成を図ります。

●コミュニティ活動エリアを中心として、広域・隣接市と連携するネットワークを構築し、ネットワーク上に雇用と活力を生む産業立地進展エリアを配置します。

●高草山、花沢の里周辺歴史文化・観光エリア、産業立地進展エリアの連携強化を図る構造とします。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

高草山をベースに、自然と歴史・文化を活かした観光交流の創出

- ・高草山の豊かな緑や浜当目海岸、重要伝統的建造物群保存地区花沢の里では、地域の自然に触れる体験・アクティビティや、歴史・文化を味わうために、多くの人が訪れています。

幹線道路を軸とした新たな産業立地の進展

- ・国道 150 号等の幹線道路沿道では、立地の優位性を活かした新たな産業立地とともに、生活利便性の向上が進み、地域の就業者の移住定住や二地域居住、若者のUターンが増加しています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【東益津地域全域】

- ・高草山や南部に広がる農地等、豊かな自然環境と調和した住環境が保全されつつ、公共交通が充実したことで、利便性の高い良好な生活環境が形成されています。
- ・花沢の里周辺の山林、瀬戸川や高草川等の河川、浜当目海岸では、地滑り対策や水害対策が進み、安全性が高まっています。

【国道 150 号・焼津岡部線沿道】

- ・国道 150 号や焼津岡部線の沿道では、幹線道路によるネットワークや、交通結節点である焼津 IC が近接する立地を活かして、静岡市や藤枝市等の近隣都市圏や県外との連携が強化され、農業・自然環境と共存した新たな産業立地が進み、雇用が創出されています。

【高草山・花沢の里・浜当目海岸周辺】

- ・浜当目海岸周辺では、空き家をリノベーションした飲食店や民泊施設が増加するとともに、駐車場等も整備され、新たな観光地として脚光を浴びています。
- ・花沢の里周辺では、地域特有の街並みを活かしつつ、古民家を活用した飲食店等の開設や、物販やイベント等の開催によるビジターセンターの活用が進んでいます。
- ・高草山や浜当目海岸等の自然資源、花沢の里や林叟院等の歴史・文化資源は、適切に保全されつつ、自然環境と調和したレジャー施設の開設や周遊ルートの設定、ハイキングコース等の活用が進むとともに、SNS 等を活用した情報発信により、市外へ魅力が発信されています。

【東益津地域交流センター周辺】

- ・東益津地域交流センターを中心としたエリアでは、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築等が進み、田園風景と調和した落ち着いた住環境が広がるとともに、東益津地域交流センターが積極的に活用されたことから、地域に暮らす誰もが気軽に集える拠点が形成されています。

III 地域未来デザイン

- ・日本坂 PA が地場製品の販売拠点や地域情報発信拠点として活用されるなど、効果的な活用が進められています。

●ヒトの姿

【東益津地域全域】

- ・シェアサイクルや地域内を循環する公共交通を利用して、地域住民がいきいきと、快適に日常生活を送っています。また、多様な移動手段を活用して、高草山のハイキングコースや笛吹段公園等からの眺望、朝比奈川沿いの山の手さくらや浜当目海岸等、豊かな自然を満喫しつつ、花沢の里周辺や那閉神社等に立ち寄るなど、多くの人が観光に訪れ、地域内で周遊を楽しんでいます。

【国道 150 号・焼津岡部線沿道】

- ・国道 150 号や焼津岡部線の沿道では、新たな土地利用の検討が進み、地域産業が活性化するとともに、魅力ある新たな雇用が創出されました。若者の U ターンや定住者等、地域に長く住み続けたいと思う人が増加しています。

【高草山・花沢の里・浜当目海岸周辺】

- ・花沢の里の趣ある街並みや、浜当目海岸周辺の特徴的な集落を活かして、古民家活用等が進むとともに、地域の特性を体験するツアーの実施や SNS 等を活用した情報発信により、関係人口や交流人口が増加し、観光交流が進展しました。また、地域の歴史に詳しい高齢者や新元気世代により、ボランティアガイド等の取組が行われたことで、地域の魅力が広く知れ渡り、移住定住が増加しています。

【東益津地域交流センター周辺】

- ・東益津地域交流センターを中心としたエリアでは、まちづくり活動や講座、イベント等が活発に行われ、子どもから高齢者まで多くの人が訪れています。また、コミュニティスクール等を通じて、地域行事が継続しており、多世代のつながりが強化され、良好な地域コミュニティが形成されています。
- ・良好な地域コミュニティが形成されたことにより、地域防災力の向上や、地域で子どもを見守り、育てる体制の構築が進み、地域住民が安全で、安心して暮らし続けられているとともに、子育て世帯をはじめとした移住定住者が増加しています。

2) 焼津地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、焼津地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

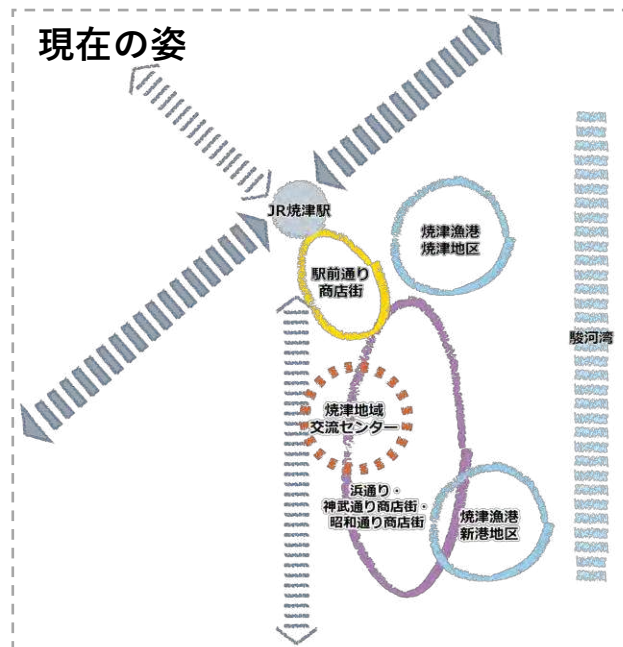
JR 焼津駅の再整備を中心とした 商業・観光の発展による 新たなにぎわいの創出

本市の顔である JR 焼津駅を中心として、商店街や焼津漁港、浜通り周辺、市役所本庁舎等において、商業や観光の発展につながるエリア形成及びエリア間連携を推進するとともに、移住定住や二地域居住の増加に向けたエリアの魅力向上を図り、新たなにぎわいの創出を図ります。



III 地域未来デザイン

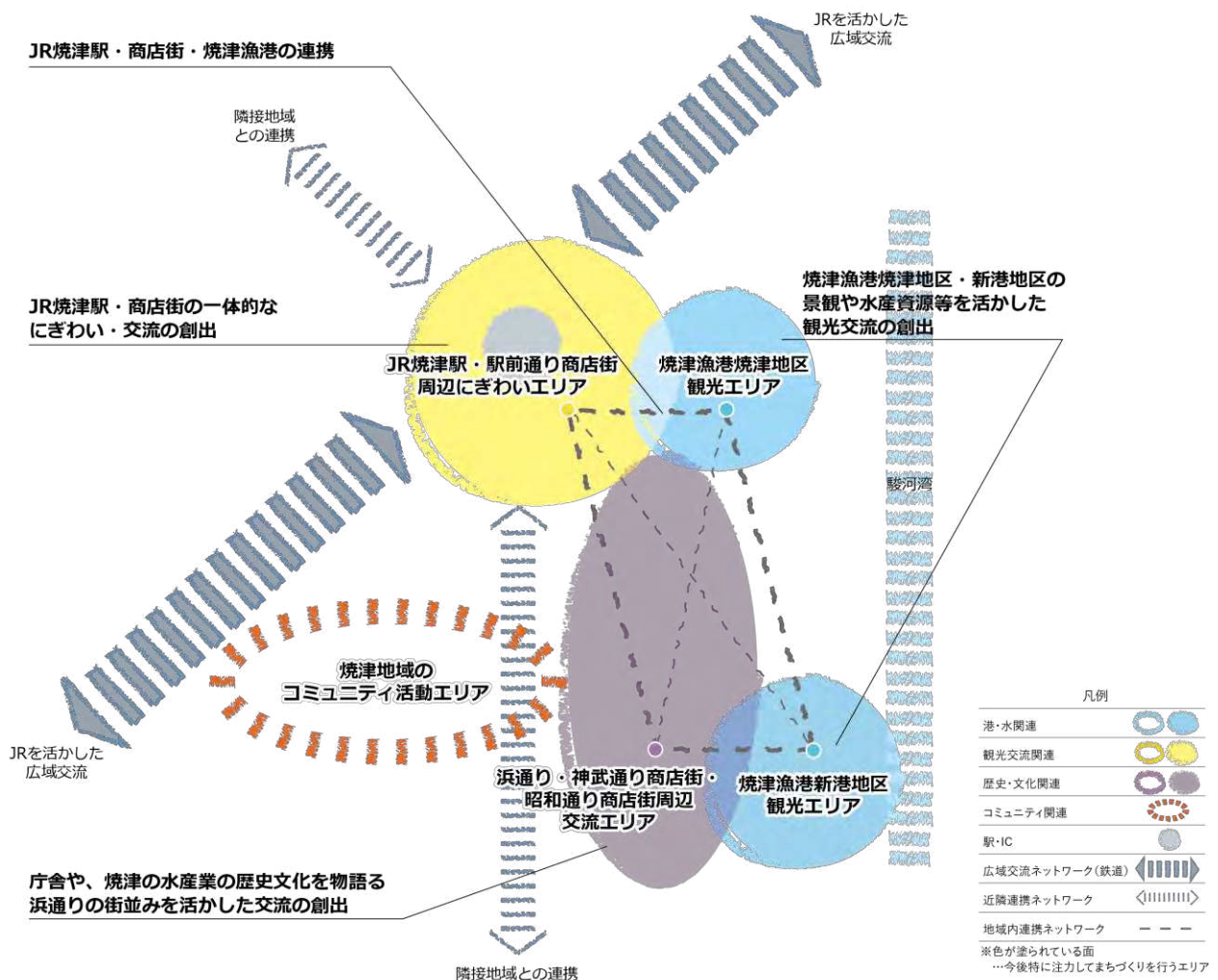
≪ 焼津地域未来デザイン ≫



- JR 焼津駅・駅前通り商店街周辺にぎわいエリアを中心としつつ、焼津漁港焼津地区観光エリア、焼津漁港新港地区観光エリア、浜通り・神武通り商店街・昭和通り商店街周辺交流エリアの形成及びエリア間の連携強化を図る構造とします。
- JR 焼津駅を中心として、広域・隣接地域と連携するネットワークを構築します。
- 浜通り・神武通り商店街・昭和通り商店街周辺交流エリアと関わりながら、焼津地域のコミュニティ活動エリア、焼津漁港新港地区観光エリアを配置します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

JR 焼津駅・商店街・焼津漁港を中心とした、にぎわいと交流の創出

- ・本市の顔である JR 焼津駅と商店街、浜通り周辺、焼津漁港を連携させるネットワークの強化と、歩いて楽しい空間づくりにより、ウォーカブルなまちが形成され、地域住民や観光客が周遊し、にぎわいと交流が生まれています。

コミュニティ活動の活性化や商店街の再生等による移住定住等の拡大

- ・焼津地域交流センターを中心とするコミュニティ活動の活性化や商店街の再生、公共交通の改善等により、生活の利便性や快適性が向上し、移住定住や二地域居住が増加しています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【焼津地域全域】

- ・JR 焼津駅を中心に商業施設や子育て支援施設等、都市機能が集積したことで併せて、地域内でシェアリングモビリティやデマンド交通等、多様な移動手段の普及が進み、地域住民の生活利便性が向上しています。
- ・JR 焼津駅や駅前通り商店街、焼津漁港や浜通り等の観光交流の拠点を中心として、地域資源の魅力を活かしつつ、歩行者ネットワークの形成や多様な移動手段が普及したことで、回遊性が向上しています。
- ・焼津漁港焼津地区の防潮堤整備が完了したことや、瀬戸川や小石川における流域治水対策が進んだことで、安全性が向上しています。

【JR 焼津駅・駅前通り商店街周辺】

- ・シンボル性と利便性の高い JR 焼津駅の駅舎及び駅前広場の再整備が完了するとともに、駅前広場周辺街区の再開発が進められたことで、質の高い空間が創出され、拠点化が進展しています。
- ・JR 焼津駅の再整備に伴う新たなにぎわいが、駅前通り商店街にも波及しています。空き店舗が活用され、飲食店や生鮮食品店等の新たな店舗が増えるとともに、マルシェ等が開催されるなど、観光交流が創出されています。また、JR 焼津駅の北側についても、低未利用地や空き店舗等の活用が進んでおり、住民生活の利便性が向上しています。
- ・市街地再開発事業が進んだことにより、子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設、教育文化施設等の都市機能及び居住機能が集積しており、まちなか居住の利便性が高まっています。

III 地域未来デザイン

【浜通り・神武通り商店街・昭和通り商店街周辺】

- ・浜通り周辺では、歴史的建造物の保存や有効活用が進み、より趣ある街並みが形成されたことで、交流人口が拡大しています。
- ・焼津市役所は、芝生広場等におけるイベント開催等により積極的に活用され、市民や観光客が集まる交流創出の中心地として活用が進んでいます。
- ・神武通り商店街・昭和通り商店街では、空き店舗の活用が進み、空き地や道路等を活かしたイベントが開催されています。

【焼津漁港焼津地区・新港地区】

- ・焼津漁港焼津地区では、焼津ならではの景観と水産資源を活かした飲食店やレクリエーション施設が集積し、水産業と観光交流が活性化しています。
- ・焼津漁港新港地区では、富士山や駿河湾の眺望、既存施設を活かし、新たな観光交流エリアが形成されています。
- ・焼津漁港周辺においては、空き家や空き地が活用され、エリアのにぎわい創出に寄与しています。

【焼津地域交流センター周辺】

- ・焼津地域交流センターは、地域の団体や地域住民により、各種講座の開講や地域課題解決のためのワークショップ、交流会のために利用されるなど、幅広い世代が集まる地域活動の拠点として効果的に活用されています。
- ・焼津市文化会館や焼津体育館、焼津神社等を活かしたイベントや祭礼が継続的に開催され、地域住民が集まる拠点として活用されています。

●ヒトの姿

【焼津地域全域】

- ・都市機能の集積や移動手段の充実がより進んだことから、地域住民は気軽に外出し、買い物や飲食を楽しんだり、焼津地域交流センター等に通ったりしています。また、生活利便性と併せて、防災力もより向上したことから、まちなか居住の利便性と安全性が高まり、移住定住や二地域居住が増加しています。
- ・JR 焼津駅の再整備や各商店街を中心として活性化が進み、歩きたくなる魅力的なまちが形成され、観光客でにぎわっています。

【JR 焼津駅・駅前通り商店街周辺】

- ・新たに整備された、JR 焼津駅のシンボリックな駅舎や駅前広場は、多くの利用者でにぎわっています。
- ・多くの市民や観光客が駅前通り商店街を訪れ、様々な店舗を巡りながら、買い物や飲食を楽しんでいます。また、散策や観光に併せて、焼津温泉を利用したり、イベントに立ち寄ったりするなど、多様な地域資源を満喫しています。

【浜通り・神武通り商店街・昭和通り商店街周辺】

- ・浜通り周辺では、歴史的建造物の保存や有効活用が進んだことから、多くの人が趣ある街並みを楽しみに訪れ、散策しています。
- ・焼津市役所の芝生広場等は、定期的なイベント開催によりにぎわいが生まれています。日常的にも、まちなかの憩いの場として利用され、子どもたちが広場で遊ぶ傍ら、市民や観光客が足湯でくつろぎながら談笑したり、観光ついでに休憩したりする様子がみられます。
- ・神武通り商店街・昭和通り商店街には、新たな店舗やイベントが増加し、多くの人が訪れています。

【焼津漁港焼津地区・新港地区】

- ・焼津漁港焼津地区・新港地区等、海沿いには、水産物を取り扱う飲食店や物販店等、魅力的なスポットが集積したことにより、若者から高齢者まで様々な世代が訪れ、余暇を楽しんでいます。また、漁港周辺のイベント等には、県内外から多くの観光客が訪れ、交流が生まれています。

【焼津地域交流センター周辺】

- ・地域住民が主体となって、まちづくり活動に積極的に取り組んでいます。また、焼津地域交流センターの活用が進み、良好な地域コミュニティが活性化したことにより、若者等も積極的に地域の祭礼に参加するなど、地域への愛着をもつ人が増えています。

3) 大村地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、大村地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

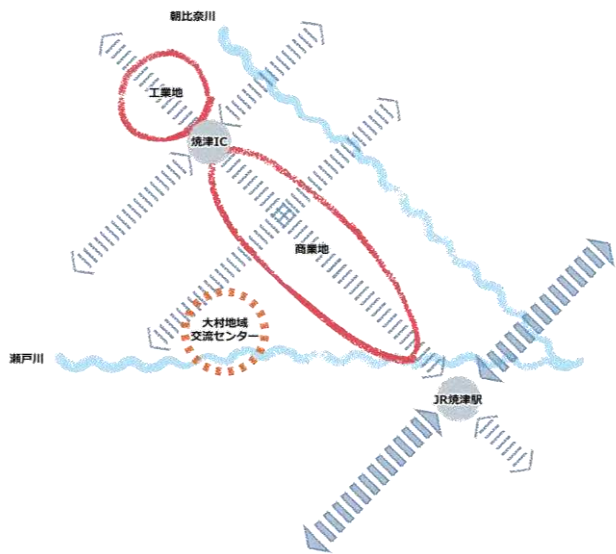
焼津 IC を中心とした 産業と交流の拡大による 快適で活気ある生活環境の形成

焼津 IC を中心として、立地と交通ネットワークを活かした産業振興と、商業振興による新たな交流の拡大により、地域産業の活性化を図るとともに、瀬戸川・朝比奈川の潤いある環境を活かしつつ、生活利便性を向上させ、快適な生活環境の形成を図ります。



《 大村地域未来デザイン 》

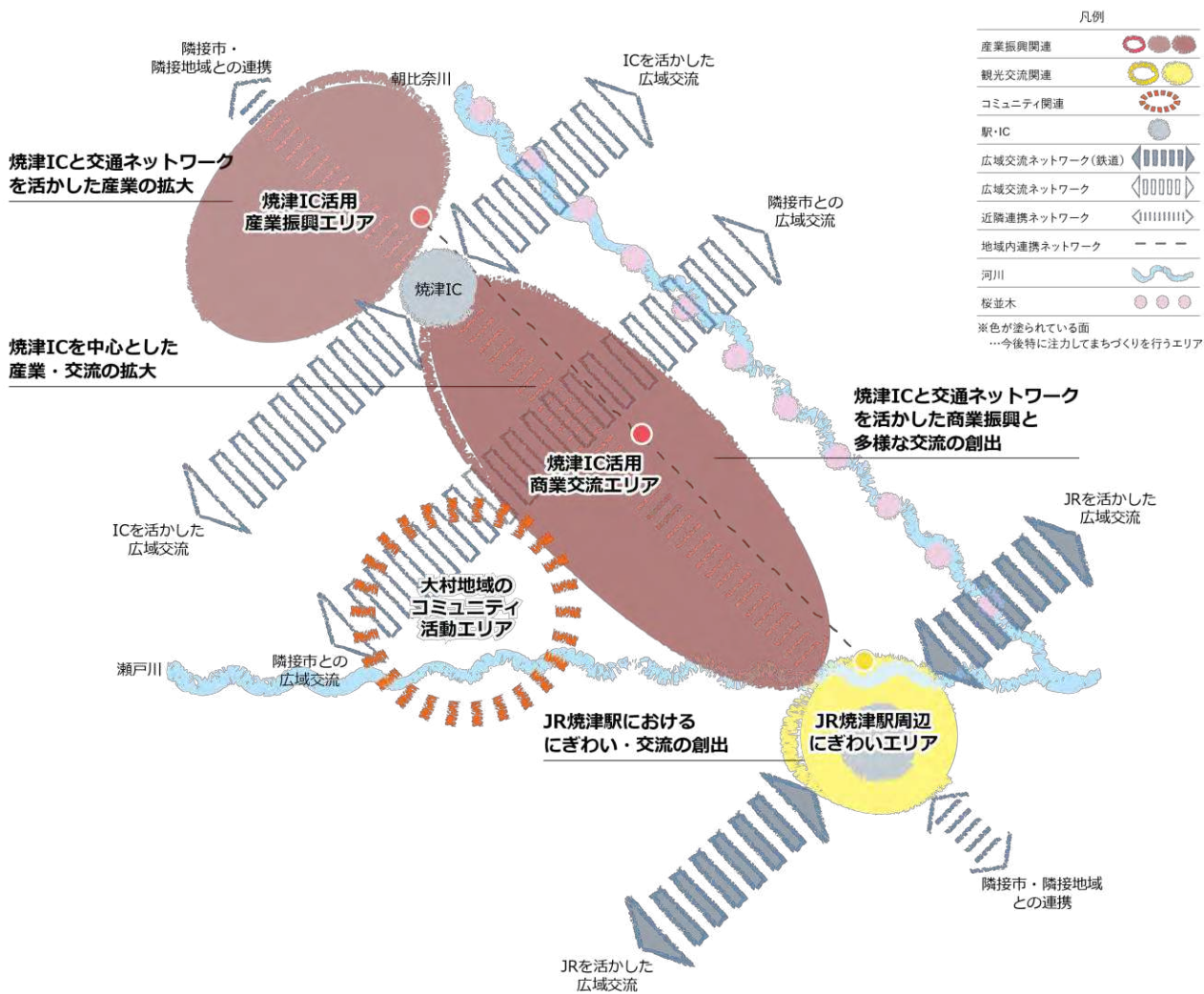
現在の姿



- 隣接市・隣接地域との連携ネットワークを軸として、焼津 IC 活用産業振興エリア、焼津 IC 活用商業交流エリア、JR 焼津駅周辺にぎわいエリアを連続させる構造とします。
- JR 焼津駅、焼津 IC を中心として、広域・隣接市・隣接地域と連携するネットワークを構築します。
- 焼津 IC 活用商業交流エリアと関わりつつ、大村地域のコミュニティ活動エリアを配置します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

焼津 IC を活かした産業拡大による地域内・広域交流の創出

- ・焼津 IC、あるいは東名高速道路や焼津広幡線等の交通ネットワークを活かして、産業立地や既存企業の拡張、新たな商業施設の立地が進みました。余暇を楽しむ若者や親子連れ、遠方からの観光客や市内外から働きにくる人等、多くの人が訪れています。

生活利便性の向上と活発なコミュニティ活動による良好な暮らしの展開

- ・利便性が高く、落ち着きある住環境が維持されるとともに、地域住民が主体となった地域活動が積極的に展開されました。地域コミュニティを活かした助け合いや、楽しんで交流できる機会が生まれています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【大村地域全域】

- ・地域全体の生活利便性が高まり、落ち着きある住環境が維持されています。また、シェアサイクル等の新たな移動手段の普及や道路・歩行空間の改善、夜間の移動の安全性が向上したことから、地域のどこでも暮らしやすい環境が整っています。
- ・災害対策が進んだことから、水害が減少し、住環境の安全性が向上しました。
- ・瀬戸川や朝比奈川は、環境保全が進むとともに、河川敷内の水辺空間の活用や歩行者・自転車ネットワークの形成により、地域住民や子どもたちに親しまれる空間が創出されています。

【焼津 IC 西側】

- ・焼津 IC 西側では、近接する焼津 IC 及び東名高速道路、焼津広幡線等の交通ネットワークを活かして、周辺の環境に配慮した産業集積が進んでいます。

【焼津 IC 東側】

- ・焼津 IC 東側では、焼津 IC や JR 焼津駅と接続した交通アクセス性の高さを活かして、新たな商業施設等の立地が進行しています。

【JR 焼津駅周辺】

- ・シンボル性と利便性の高い JR 焼津駅の駅舎及び駅前広場が再整備されたことで、質の高い空間が創出され、拠点化が進展しました。再整備に伴い、周辺へにぎわいが波及し、空き店舗の活用が進んでいます。

【大村地域交流センター周辺】

- ・大村地域交流センターは、多様な利用者に配慮した体制の充実が進むとともに、地域住民が主体となった活動が展開されており、誰もが気軽に集まれる施設になっています。

- ・大覚寺公園や総合福祉会館等は、地域活動の場やイベントの会場等として利用され、大村地域交流センター周辺一帯が、地域コミュニティの拠点として親しまれ、活用されています。

●ヒトの姿

【大村地域全域】

- ・生活利便性の高さに加えて、シェアサイクル等の多様な移動手段が展開されたことから、誰もが気軽に外出をして、日常生活や余暇をいきいきと過ごしています。
- ・快適な住環境の形成と併せて、産業・商業集積に伴う雇用の充実により、若者を中心に移住定住や二地域居住が増加しています。また、水害等が減少したことで、安心して暮らしています。
- ・瀬戸川や朝比奈川には、水辺で遊ぶ子どもたちや、川沿いでサイクリングやウォーキングを楽しむ人々が地域内外から訪れています。

【焼津 IC 西側】

- ・焼津 IC 西側では、産業集積が進み、県内外の人やモノの交流が生まれています。雇用が創出されたことから、市内外から働きに来る人や、Uターンする若者が増加しました。

【焼津 IC 東側】

- ・焼津 IC 東側では、新たな商業施設等の立地が進んだことから、地域内外から若者や親子連れが遊びにきて、買い物や飲食を楽しんだり、焼津 IC から観光客が訪れたりして、多くの人でにぎわっています。

【JR 焼津駅周辺】

- ・JR 焼津駅周辺では、空き店舗の活用等が進んだことから、地域住民や観光客が、買い物等に訪れています。また、生活利便性が向上したことから、まちなかに居住する人が増加しました。

【大村地域交流センター周辺】

- ・大村地域交流センターでは、子どもから高齢者まで、誰もが主体的に活動し、地域活動の展開や多世代交流の機会、多文化共生の取組を通じて、笑顔で交流を楽しんでいます。
- ・活動を通じて地域コミュニティのつながりが強化され、地域の祭礼や地縁団体の活動にも、積極的に参加する人が増えており、これまで継続してきた地域文化が次世代に引き継がれています。

4) 豊田地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、豊田地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

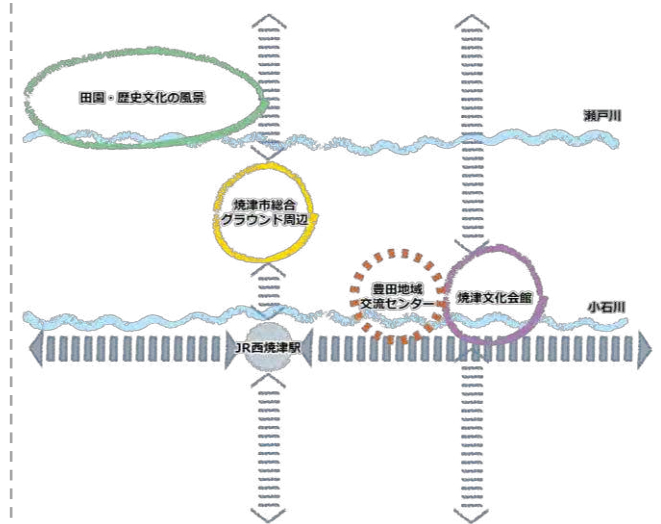
JR 西焼津駅を中心とした 洗練された住環境の形成による 多様な交流の創出

周辺地域やエリアと連携する JR 西焼津駅が中心となり、文化的で洗練された雰囲気が漂う、良好な住環境を形成するとともに、JR 東海道本線による広域ネットワークを活かすことで、地域内外の多様な交流の創出を図ります。



《 豊田地域未来デザイン 》

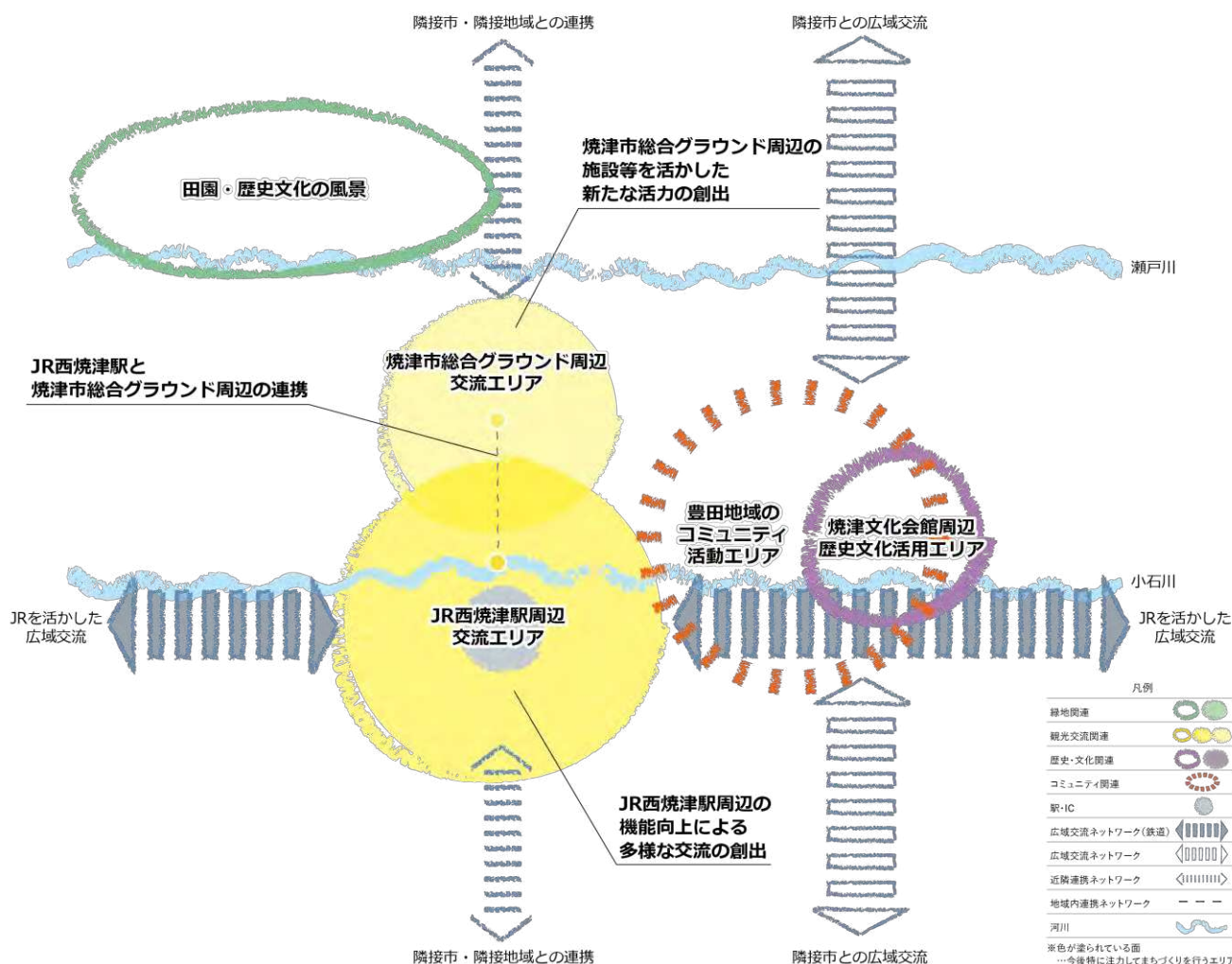
現在の姿



- 中心となる JR 西焼津駅周辺交流エリアと関わりながら、焼津市総合グラウンド周辺交流エリア、豊田地域のコミュニティ活動エリア、焼津文化会館周辺歴史文化活用エリアを形成します。
- JR 西焼津駅を中心として、広域・隣接市・隣接地域と連携するネットワークを構築します。
- 新たな交流の創出をねらいとし、JR 西焼津駅周辺交流エリアと焼津市総合グラウンド周辺交流エリアの連携強化を図る構造とします。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

JR 西焼津駅を中心とした、洗練された住環境の創出

- ・ JR 西焼津駅周辺では、新たにオープンした商業施設や子育て支援施設を利用するために、市内外から多様な世代の人々が集まり、良好な街並みの中を行き交っています。

焼津文化会館周辺を活かした多彩な文化活動の展開

- ・ 焼津文化会館周辺では、様々なイベントや文化活動が展開され、子どもから高齢者まで、多くの世代が参加して、文化活動に親しんでいます。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【豊田地域全域】

- ・ JR 西焼津駅を中心として、商業施設等の集積や公共交通ネットワークの形成が進んだことから、生活利便性が向上しています。また、焼津市総合グラウンドを含むエリアを活かしたにぎわい創出や、豊田地域交流センターを中心とした地域活動が行われ、地域に活気が生まれています。
- ・ エリア内には環境にやさしい新たな住宅地が形成され、持続可能なまちの先進モデルとなり、注目を浴びています。
- ・ 最先端のデジタル技術を活かした公共交通システムの導入や、マイクロモビリティ等の普及により、JR 西焼津駅周辺や地域内の病院、豊田地域交流センター等、目的地に合わせて多様な交通手段から選択できるようになり、公共交通アクセスの利便性が向上しました。
- ・ マイクロモビリティの普及や公共交通が充実するとともに、焼津市総合グラウンドを含むエリアや保福島親水公園、豊田地域交流センター等の地域の拠点を結ぶ周遊ルートが形成されたことで、地域内の回遊性が向上しています。また、地域内の幹線道路は整備が進み、移動の利便性が向上しています。
- ・ 瀬戸川や小石川では、治水対策の推進により、安全性が向上するとともに、保福島親水公園等の魅力ある空間が創出され、地域のにぎわい創出に寄与しています。

【JR 西焼津駅周辺】

- ・ JR 西焼津駅周辺では、低未利用地の有効活用が進展しています。子育て施設や商業施設、福祉施設等が集積して、暮らしの利便性が高まるとともに、魅力ある店舗等が増加し、良好な街並み景観が創出されています。
- ・ JR 西焼津駅周辺においては、潤いある歩行者ネットワークの構築や夜間の歩行環境の改善により、安全で歩きたくなるまちづくりが進んでいます。

【焼津市総合グラウンド周辺】

- ・焼津市総合グラウンドを含むエリアは、JR 西焼津駅や保福島親水公園等との連携のもと、新たな活力やにぎわいを創出する施設活用及び土地利用の検討が進められています。

【焼津文化会館周辺】

- ・焼津文化会館や小泉八雲記念館等の文化施設は、他施設や教育機関等との連携が強化されたことにより、さらに多様なイベントや活動が展開され、より多くの人が訪れ、交流する施設として活用されています。

【保福島周辺】

- ・保福島周辺の農地や旭伝院のマツ等の自然資源、地域内の社寺等の歴史・文化資源は、適切に維持管理されています。また、田園風景と調和した落ち着いたある住環境が形成されており、地域の原風景が活かされています。

【豊田地域交流センター周辺】

- ・豊田地域交流センターでは、自治会や地域の団体等により、ホール等を利用した運動教室や料理教室等の各種講座、広場を活用したイベント等が開催されていることと併せて、SNS を活用した情報発信や学生と連携した取組が行われるなど、幅広い世代が集まる地域活動の拠点として効果的に活用されています。

●ヒトの姿

【豊田地域全域】

- ・JR 西焼津駅を中心として、生活の魅力や利便性が向上するとともに、安全性の高い住環境が形成されたことにより、近隣市町へと通勤・通学する人や子育て世帯の移住定住・二地域居住が増加しています。
- ・最先端のデジタル技術を活かした新たな公共交通システムの導入等が進展したことにより、住民は安全で快適に暮らしています。
- ・快適な歩行空間の整備と併せて、地域資源や公共施設の連携が進み、周遊ルートが形成されたことから、地域内の回遊性が高まり、高齢者や障がいのある人等、誰もが気軽に外出をして、買い物や散策を楽しみ、いきいきと暮らしています。

【JR 西焼津駅周辺】

- ・JR 西焼津駅を中心として、居住機能や子育て支援施設、店舗等が充実したことと併せて、歩きたくなるまちづくりが進んだことから、放課後に談笑する高校生や大学生、子育て支援施設で遊ぶ子どもたち、買い物を楽しむ家族連れ等、市内外から多くの人が訪れ、まちなかを行き交う様子が見られます。

【焼津市総合グラウンド周辺】

- ・焼津市総合グラウンドを含むエリアや保福島親水公園には、散策を楽しみ、余暇を過ごすために、周辺地域から人が訪れています。

III 地域未来デザイン

【焼津文化会館周辺】

- ・焼津文化会館や小泉八雲記念館、清見田公園等の連携が進み、地域住民や市民が多様な文化芸術に親しめる取組が一体的に行われ、歴史・文化の講座や音楽イベントに訪れる人、公園で読書を楽しむ人等、地域住民や市民が文化活動に親しんでいます。

【豊田地域交流センター周辺】

- ・豊田地域交流センターは、地域住民が気軽に利用できる拠点として活用されています。若者から高齢者まで様々な人が、講座を開き、活動の場として利用したり、サロン等で談笑したりして、多世代交流が活発に行われています。
- ・良好な地域コミュニティが形成され、地域での活動がより活発になっています。にぎわい創出に関する事業においては、若者や子育て世帯も積極的に運営に参加しています。

5) 小川地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、小川地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

小川港の活用と 黒石川を中心とした コミュニティ活動の拡大による 快適な生活環境の形成

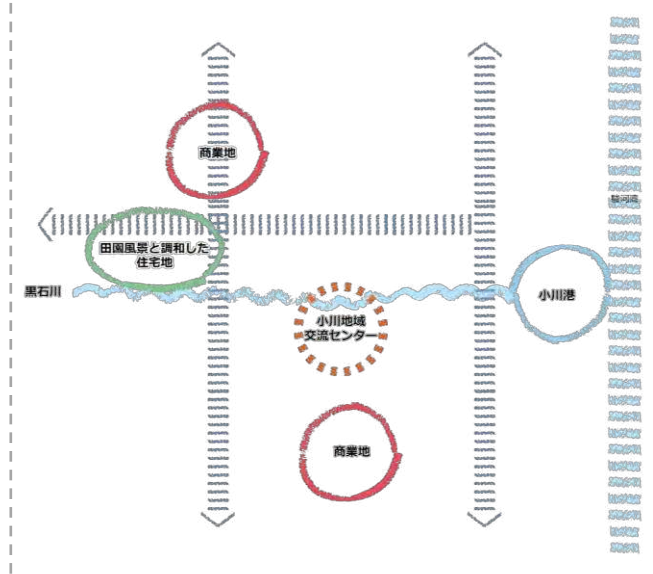
小川港を交流創出に活用するとともに、地域の中央を横断する黒石川や、小川地域交流センターを中心として、コミュニティ活動を拡大することにより、良好な地域コミュニティと生活利便性の高さが共存した、快適な生活環境の形成を図ります。



III 地域未来デザイン

◀ 小川地域未来デザイン ▶

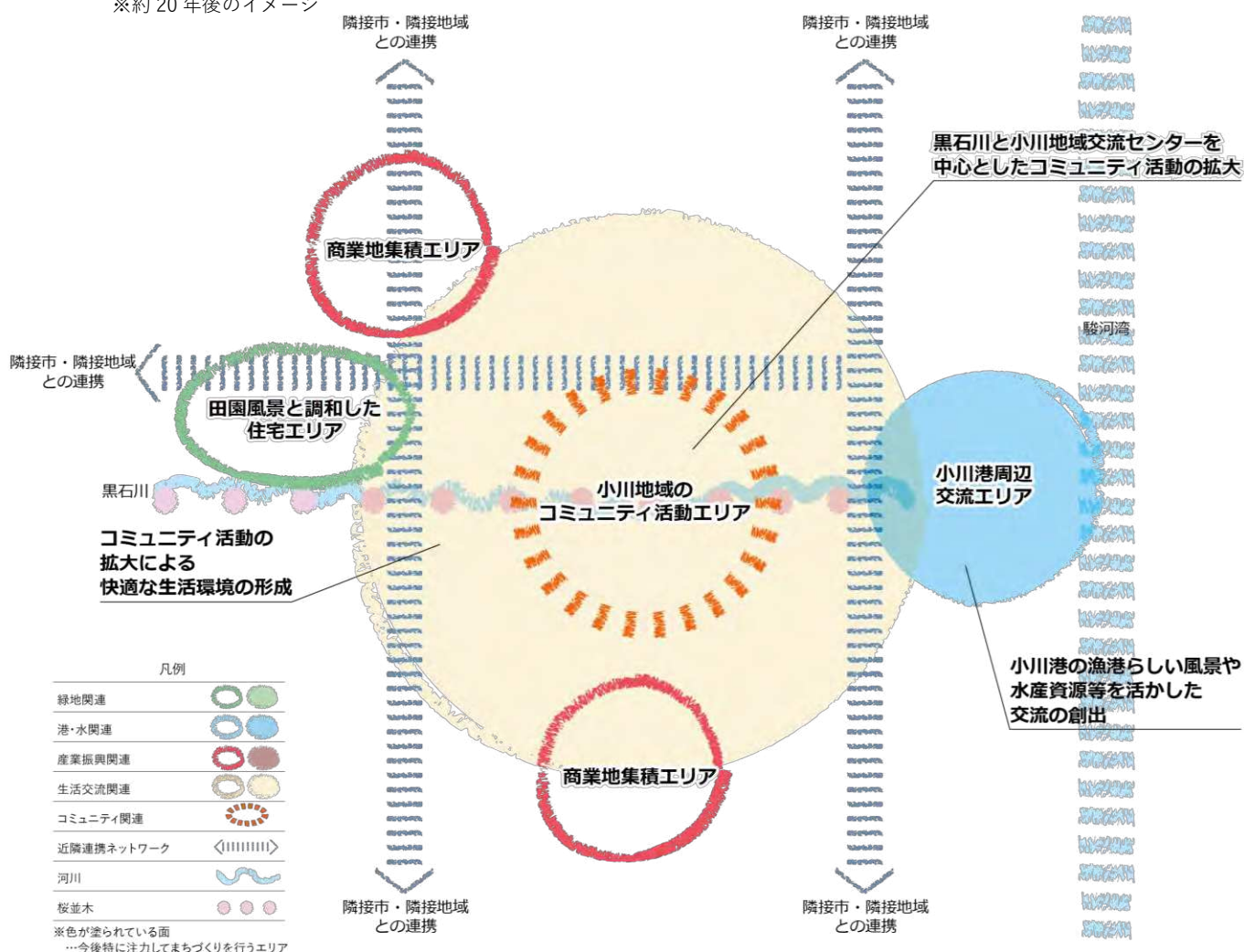
現在の姿



- 小川地域のコミュニティ活動エリアを中心として、快適な生活環境が地域全体に広がり、コミュニティ活動エリアを囲むように小川港周辺交流エリアや商業地集積エリア、田園風景と調和した住宅エリアが配置される構造とします。
- 地域の南北と東西に、隣接市・隣接地域と連携するネットワークを構築します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

小川のコミュニティ活動エリアを中心とした、多世代交流と快適な住環境の拡大

- ・快適な暮らしが守られるとともに、黒石川の桜並木、熊野神社や海蔵寺、西光寺等のお祭り、小川地域交流センターを活用して、多世代が交流し、住民主体の活動が活発に行われています。

小川港における新たな交流エリアの形成

- ・小川港の風景や特徴を活かして、新たな交流エリアが形成され、市内外から人が訪れる等、地域内で人々が行き交う様子が見られます。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【小川地域全域】

- ・会下ノ島石津土地区画整理事業や焼津市南部土地区画整理事業によって形成された、良好な市街地環境が維持されているとともに、幹線道路沿道においては、商業施設の立地が進んでいます。また、商業施設や小川地域交流センター等を巡回する先端技術を活かした多様な移動手段が普及したことから、地域全域において生活利便性が向上しています。
- ・海蔵寺や小川公園、黒石川沿いの桜並木や飲食店等、地域の多様な資源をつなぐ散策路の整備等により、地域資源の活用と歩きたくなるまちづくりが進んでいます。
- ・黒石川等で流域治水対策が進むとともに、小川港における防波堤の整備が完了したことにより、安全性が向上しています。
- ・熊野神社や海蔵寺、西光寺等の社寺や文化財は、適切に保全・活用されています。また、社寺では地域の祭礼が行われ、歴史・文化を継承する拠点として活用されています。
- ・黒石川沿いの桜並木等の自然資源は、地域住民の主体的な活動や観光客の支援により、適切に維持管理され、地域の名所として活用されています。

【黒石川北部】

- ・道路空間の向上やデマンド交通の運行等が行われたとともに、空き家・空き地の活用等が進んだことから、住みよい環境が構築されています。

【黒石川南部】

- ・会下ノ島石津土地区画整理事業や焼津市南部土地区画整理事業によって形成された良好な住環境が維持されるとともに、地域住民が買い物等に訪れる、利便性の高いゾーンが形成されています。

III 地域未来デザイン

【黒石小学校周辺】

- ・田園風景と調和した落ち着いた住環境が保全されています。遊休農地についても、新たな担い手への継承による農業の維持や、住宅地としての活用が進むなど、良好な農地と住環境が共存しています。

【小川港周辺】

- ・小型船舶が並び、大漁旗がなびく漁港らしい風景や、水産物等を活かして、地域内外から多くの人が訪れる取組やイベント等が行われたことで、新たな交流エリアが形成されています。

【小川地域交流センター周辺】

- ・小川地域交流センターは、地域の団体や地域住民により、各種講座の開講や地域課題解決に向けたワークショップ、交流会のために利用されるなど、幅広い世代が集まる地域活動の中心として効果的に活用されています。また、自治会や町内会等、地域活動を担ってきた地縁団体と、新たな担い手が交わる活動拠点となっています。

●ヒトの姿

【小川地域全域】

- ・良好な市街地環境の維持と併せて、利便性の高い移動手段が発達したことにより、高齢者や障がいのある人等、誰もが気軽に外出をして、いきいきと暮らしています。また、利便性の高い生活環境が評価され、子育て世帯等の移住定住や二地域居住が増加しています。
- ・焼津市消防防災センターでは、本市の防災拠点として防災イベントや地域防災リーダー研修等が開催されていることもあり、住民の防災意識が高まっています。
- ・地域の社寺や公園、店舗等の地域資源をつなぐ散策路の整備により、地域住民は、散策を楽しむとともに、地域の魅力を実感しています。
- ・熊野神社や海蔵寺、西光寺等における地域の祭礼等、地域の歴史・文化的な活動には、子どもから高齢者まで地域住民が積極的に参加しています。
- ・黒石川沿いの桜並木等の自然資源は、地域住民が、イベント等で主体的に活用するとともに、維持管理を継続しています。地域の名所となり、春先には地域住民や観光客でにぎわっています。

【黒石川北部】

- ・道路空間の向上や空き家・空き地の活用が進み、景観や治安が向上したことで、快適な住環境が築かれ、住民が安心して暮らしています。

【黒石川南部】

- ・住民は落ち着いて暮らしているとともに、良好な市街地環境が維持されていることから、デマンド交通等を利用して、買い物や病院、小川地域交流センター等へ出かけています。

【黒石小学校周辺】

- ・農地と住宅が共存した環境で、住民は落ち着いて暮らしています。農地の適切な維持管理や、農地を活用した子ども対象のイベント等が行われており、農作業を行う住民の姿や、オフシーズンに田んぼで遊ぶ子どもたちが見られます。

【小川港周辺】

- ・小川港周辺では、新たな交流エリアの形成により、漁港らしい風景を楽しみながら水産物を味わったり、イベントに参加したりするなど、市内外から多くの人が訪れています。

【小川地域交流センター周辺】

- ・小川地域交流センターでは、若者や外国につながる住民等、誰もが楽しんで参加したくなる活動や、高齢者の生きがいづくりにつながる取組が展開されています。多様な活動により良好な地域コミュニティが形成されたことで、地域の祭礼やイベント、地域防災訓練等、かねてより行われていた活動の継承にもつながっています。
- ・自治会や町内会等、地域活動を担ってきた地縁団体が中心となり、小川地域交流センターを積極的に利用する新たな担い手や、地域への移住者等を巻き込み、団体の垣根を超えた新たな活動が行われています。地域コミュニティに関わるきっかけが生まれたことから、多世代交流が活発です。

6) 港地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、港地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

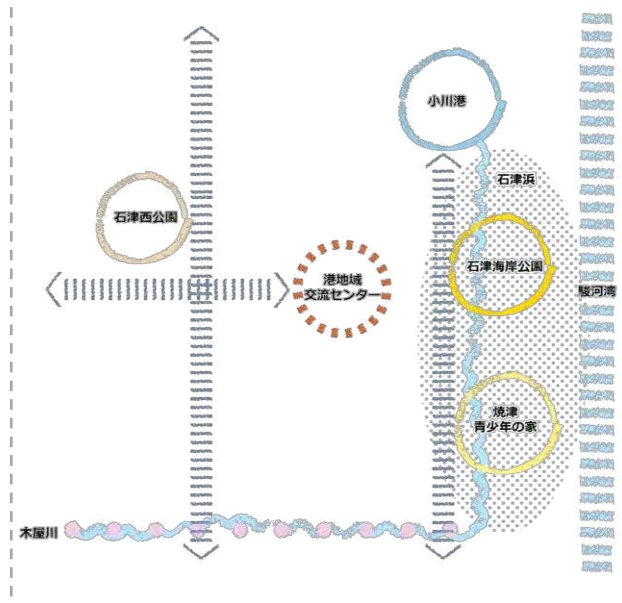
石津浜の景観の保全・活用と 地域コミュニティの強化による 安全で快適な生活環境の形成

石津浜の美しい景観や豊かな自然の保全・活用と併せて、沿岸部における防災力を高めるとともに、地域コミュニティの強化を図ることで、海と共生した、安全で快適な生活環境の形成を図ります。



≪ 港地域未来デザイン ≫

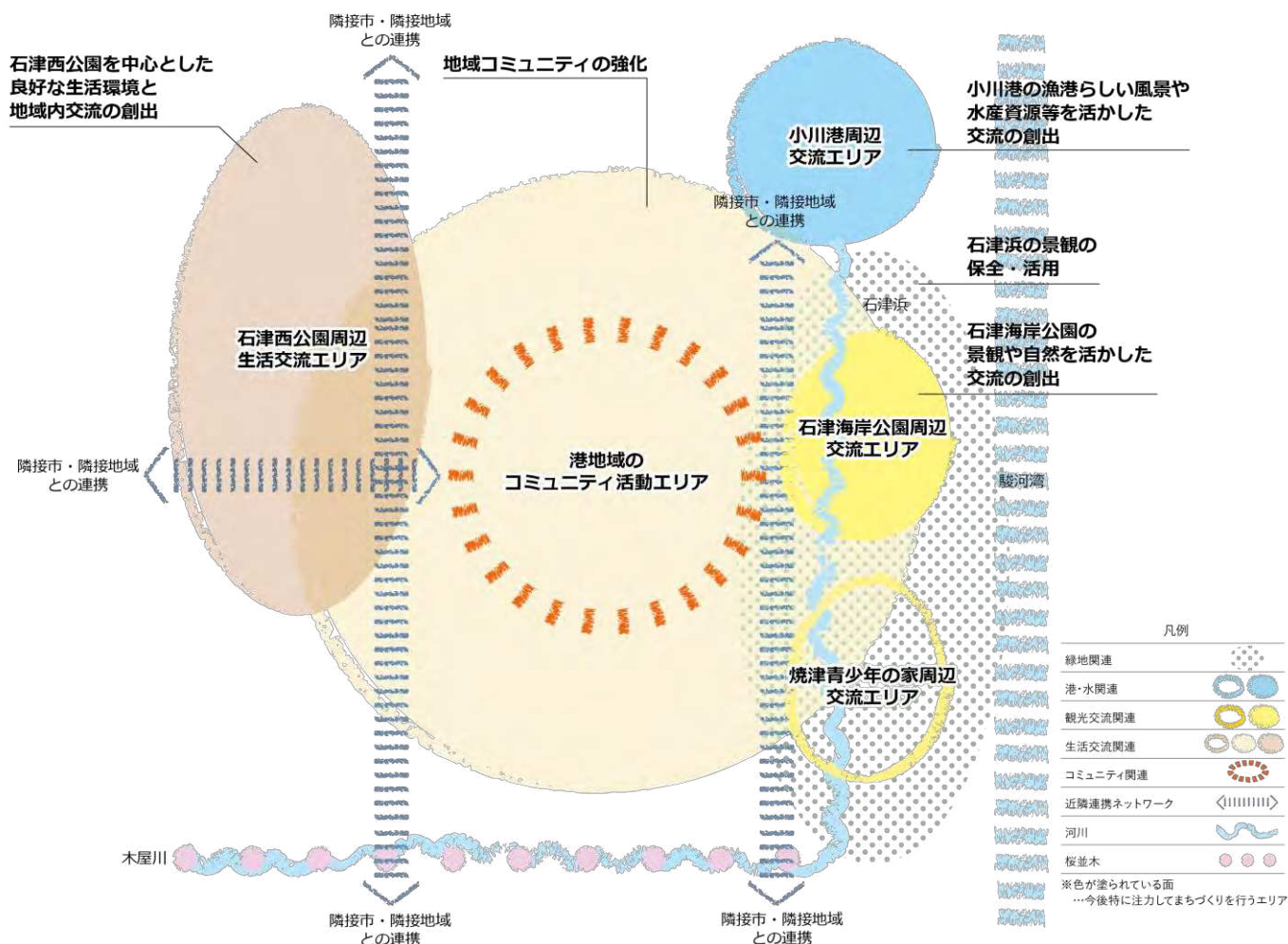
現在の姿



- 地域の特徴である石津浜と関わりながら、石津海岸公園周辺交流エリア、焼津青少年の家周辺交流エリアの形成を図ります。
- 港地域のコミュニティ活動エリアを中心として、地域コミュニティを強化させ、石津海岸公園周辺交流エリア、焼津青少年の家周辺交流エリア、小川港周辺交流エリア、石津西公園周辺生活交流エリアと接する配置とします。
- 地域の南北と東西に、隣接市・隣接地域と連携するネットワークを構築します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

石津浜周辺の魅力の向上による交流の創出

- ・石津浜周辺は、石津海岸公園からの美しい景観や、焼津青少年の家における自然体験等を活かして魅力が向上され、地域住民を中心として、多くの人が訪れ、交流を楽しんでいます。

心身の健康づくりの促進と、安全で快適に暮らせる環境の形成

- ・豊かな自然に囲まれた環境のなかで、地域住民は身近な公園や散策路、グラウンド等を利用し、心身ともに健康で、充実した暮らしを送っています。また、石津浜や木屋川における防災力が高まったことと併せて、良好な市街地環境と利便性の高い移動手段が発達したことから、安全で快適な暮らしが実現し、移住定住や二地域居住が増加しています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【港地域全域】

- ・会下ノ島石津土地区画整理事業や焼津市南部土地区画整理事業によって形成された、良好な市街地環境が維持されているとともに、地域内を巡回する多様な移動手段が普及したことから、地域全域における生活利便性が向上しています。
- ・道路等のインフラ整備とともに、石津浜における水害対策や木屋川等の流域治水対策が進み、安全性や地域防災力が向上しています。
- ・田尻北公園や松原公園等、地域内の公園は、地域住民のニーズに合わせた改修が進み、魅力が高まっています。
- ・小川港では、小型船舶が並び、大漁旗がなびく漁港らしい風景や水産物等を活かして、地域内外から多くの人が訪れる取組やイベント等が行われたことで、新たな交流エリアが形成されています。
- ・地域内の農地は、新たな担い手への継承等が進んだことから、落ち着いた田園風景が維持されています。

【石津浜周辺】

- ・石津海岸公園周辺では、駿河湾や富士山の眺望や、美しい自然環境が維持・保全されるとともに、アクセス性等が高まりました。多目的広場や芝生広場も利用が増え、地域住民を中心として、多くの利用者が訪れるエリアとなっています。
- ・焼津青少年の家等の施設は、自然を活かし、近隣の拠点と連携しながら、運動や体験プログラムがさかんに行われ、交流の拠点として活用されています。

【石津西公園周辺】

- ・石津西公園周辺は、良好な市街地環境が維持されており、地域住民が買い物等に訪れる、利便性の高いエリアが形成されています。

【港地域交流センター周辺】

- ・港地域交流センターは、機能が充実したことで併せて、地域住民が主体となった地域活動や講座、イベント等でより利用されるようになり、地域活動の拠点として、効果的に活用されています。

●ヒトの姿

【港地域全域】

- ・良好な市街地環境の維持と併せて、利便性の高い移動手段が発達したことから、生活利便性が高まりました。海が近く、釣り等を行ったり、海岸線沿いのウォーキングを楽しんだりできる豊かな自然環境も評価され、移住定住や二地域居住が増加しています。
- ・地域内の公園は、地域住民のニーズに合わせた改修が進み、親子が遊んだり、高齢者が健康づくりに活用したりするなど、地域住民の利用が増加しました。
- ・地域コミュニティの活動が活発化したことや、多世代交流が進んだことから、地域の担い手が増加しました。水天宮の例大祭や松の小径等、地域の歴史的な祭礼や資源が受け継がれ、歴史・文化を継承しています。
- ・小川港周辺では、新たな交流エリアの形成により、漁港らしい風景を楽しみながら水産物を味わったり、イベントに参加したりするなど、市内外から多くの人が訪れています。

【石津浜周辺】

- ・石津海岸公園周辺は、自然や美しい景色を味わいながらウォーキングする人や、運動のために多目的広場を利用する団体等、地域内外から様々な目的のために人が訪れ、にぎわいがあふれています。
- ・焼津青少年の家等の施設では、自然体験やスポーツイベント、地域の人材と協力した体験プログラム等が充実し、地域内外から親子連れ等が訪れ、体験や交流を楽しんでいます。

【石津西公園周辺】

- ・石津西公園周辺には、多くの地域住民が、買い物等のために訪れています。
- ・石津西公園には、遊ぶ子どもたちや談笑する親子連れ、休憩する若者等が訪れています。また、キッチンカーによる出店やマルシェ等のイベントが開催され、にぎわいがあふれています。

【港地域交流センター周辺】

- ・港地域交流センターは、機能が充実したことで、多くの住民が気軽に訪れ利用しています。また、若者から高齢者まで、誰もが主体的にイベント開催や講座開講を行い、世代にかかわらず、笑顔で交流しています。バリアフリー化も進んだことから、親子や障がい者、高齢者等、誰もが利用しやすく、いきいきと活動しています。

7) 大富地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、大富地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

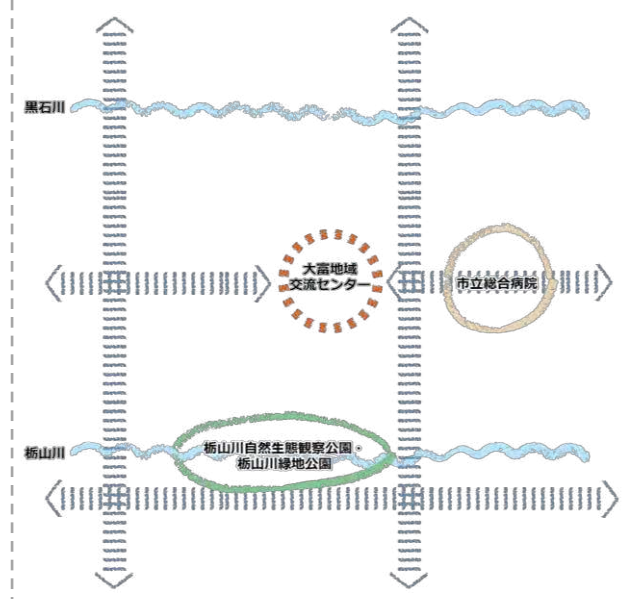
栃山川や田園と調和した メリハリある土地利用の推進による ゆとりある生活環境の形成

栃山川等の自然や地域に広がる田園風景との調和を図りつつ、幹線道路が充実した良好な交通ネットワークを活かして、効率的で、メリハリある土地利用を推進することにより、ゆとりある良好な生活環境の形成を図ります。



《 大富地域未来デザイン 》

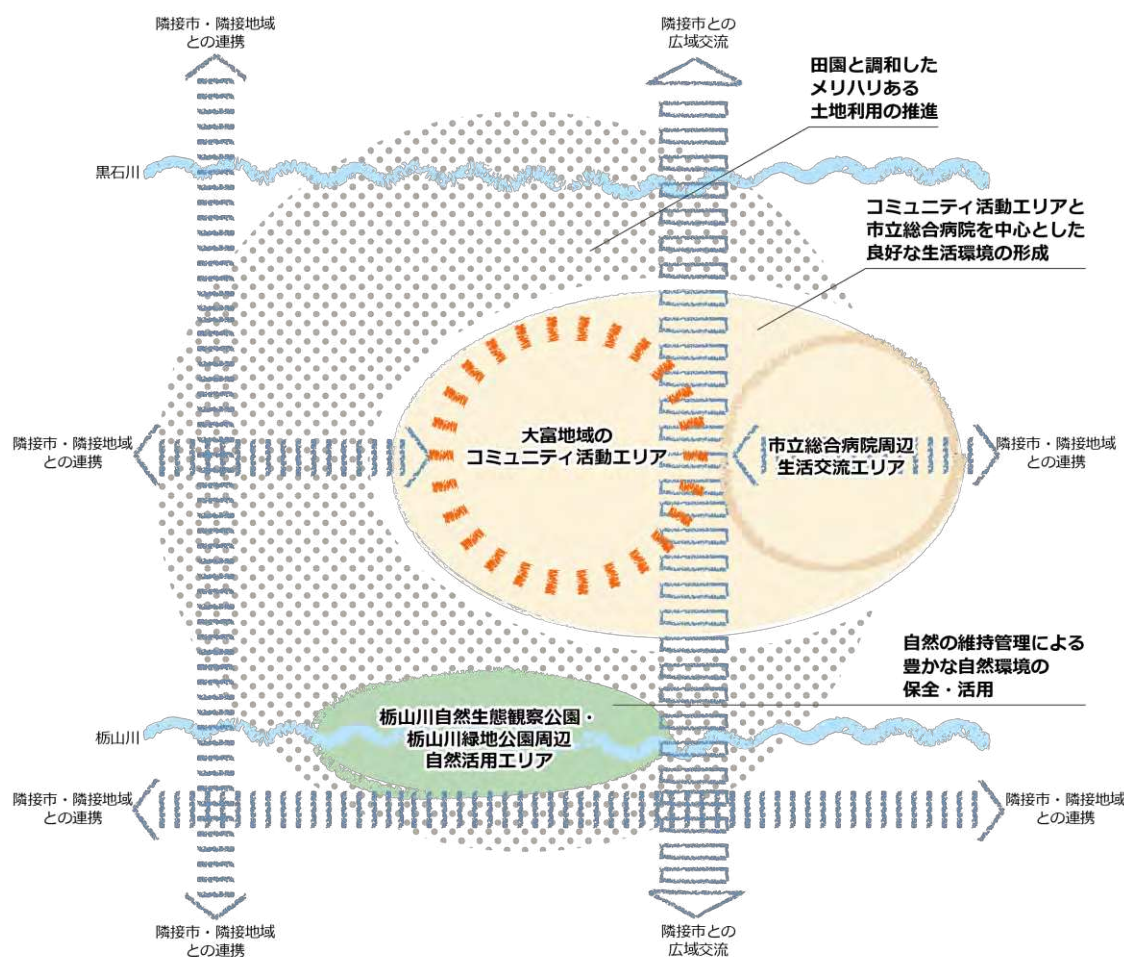
現在の姿



- 地域全域において、広域・隣接市・隣接地域と連携するネットワークを活かしながら、田園風景と調和したメリハリある土地利用の推進を図ります。
- 中心部には、大富地域のコミュニティ活動エリアと市立総合病院周辺生活交流エリアを配置し、それらを中心として、良好な生活環境が広がる構造とします。
- 栃山川沿いには、栃山川自然生態観察公園・栃山川緑地公園周辺自然活用エリアを配置します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



凡例

緑地関連	
生活交流関連	
土地利用関連	
コミュニティ関連	
広域交流ネットワーク	
近隣連携ネットワーク	
河川	

※色が塗られている面
…今後特に注力してまちづくりを行うエリア

(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

幹線道路による交通ネットワークを活かした活力の創出と生活利便性の向上

- ・国道 150 号や小川島田幹線、寄子橋大島線等の幹線道路の沿道では、近隣市町や大井川焼津藤枝 SIC 等へのアクセス性の高さを活かして、自然環境と調和した新たな土地利用が進んだことから、地域内外から働きに来る人や、日用品の買い物に訪れる人など、人やモノの交流が生まれています。

地域コミュニティの強化による良好な住環境の形成

- ・大富地域交流センターを中心として、地域住民の主体的な活動が行われています。世代にかかわらず、誰もが積極的に交流する機会が増加したことから、地域コミュニティが強化され、暮らしやすい地域が形成されています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【大富地域全域】

- ・田園風景と調和した落ち着いた住環境が保全されつつ、公共交通が充実したことで、利便性の高い良好な生活環境が形成されています。
- ・地域全域において、道路環境や夜間の歩行環境が改善したことにより、安全性が高まっています。
- ・地域内の遊休農地や低未利用地が有効活用され、地域住民の生活利便性の向上や新たな雇用の創出につながっています。
- ・栃山川自然生態観察公園や黒石川沿いの桜並木、神社や飲食店等、地域の多様な資源をつなぐ散策路の整備等により、地域資源の活用と歩きたくなるまちづくりが進んでいます。

【市立総合病院周辺】

- ・市立総合病院周辺は、生活利便施設のさらなる充実が図られたことから、病院や買い物等のために地域内外から人が訪れる、利便性の高いエリアが形成されています。

【栃山川自然生態観察公園・栃山川緑地公園周辺】

- ・栃山川自然生態観察公園・栃山川緑地公園周辺は、樹木等の維持管理が進んだことで、豊かな自然環境や生態系が保全されるとともに、情報発信が進んだことから、地域内外から人が訪れる拠点となっています。

【幹線道路沿道】

- ・国道 150 号や小川島田幹線、寄子橋大島線等の幹線道路の沿道では、近隣市町や大井川焼津藤枝 SIC 等へのアクセス性の高さを活かして、藤枝市や島田市等の近隣都市圏や県外との間で、人やモノの交流が進みました。沿道の低未利用地等が活用され、田園風景と調和した新たな土地利用が進んでいます。

【大富地域交流センター周辺】

- ・大富地域交流センターは、親子連れや高齢者等、多様な利用者に配慮した仕組みやサポートが充実するとともに、地域住民を主体とした活動が展開したことから、誰もが気軽に集まれる施設になっています。
- ・大富地域交流センター周辺では、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築等が進んだことから、利便性や安全性が高まっています。

●ヒトの姿

【大富地域全域】

- ・公共交通の利便性が高まったことから、地域住民は快適に日常生活を送っています。
- ・田園風景と調和した新たな土地利用が進み、生活利便性の向上や雇用の創出につながりました。加えて、地域住民のニーズに合わせた子育て支援の向上や公園の改修等が行われたことなどにより、子育て等の魅力が高まり、移住定住や二地域居住が増加しています。
- ・地域資源をつなぐ散策路の整備により、地域住民は、地域の多様な魅力を感じながら、散策を楽しんでいます。

【市立総合病院周辺】

- ・市立総合病院周辺は、公共交通が充実したことから、若者や高齢者等、地域内外から多くの人が、通院や買い物等、様々な目的のために訪れています。

【栃山川自然生態観察公園・栃山川緑地公園周辺】

- ・栃山川自然生態観察公園や栃山川緑地公園周辺は、居心地の良い自然環境や豊かな生態系が保全されたことから、来訪者は散策や木陰での休憩、生物の観察等、自然とのふれあいを楽しんでいます。

【幹線道路沿道】

- ・国道 150 号や小川島田幹線、寄子橋大島線等の幹線道路の沿道では、新たな土地利用が進んだことから、地域内外から働きに来る人や、日用品の買い物に訪れる人等、人やモノの交流が生まれています。

【大富地域交流センター周辺】

- ・大富地域交流センターでは、地域住民の主体的な活動により、子どもから高齢者まで、誰もが楽しんで参加したくなるイベントや講座等が行われています。地域のまちづくりや課題に関して、世代を超えた意見交換等も活発に行われ、誰もが地域に愛着をもち、積極的に交流しています。
- ・大富地域交流センター周辺では、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築等が進みました。道路の安全性等も向上され、小中学校へ通う児童・生徒や、大富地域交流センターを利用する地域住民が行き交っています。

8) 和田地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、和田地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

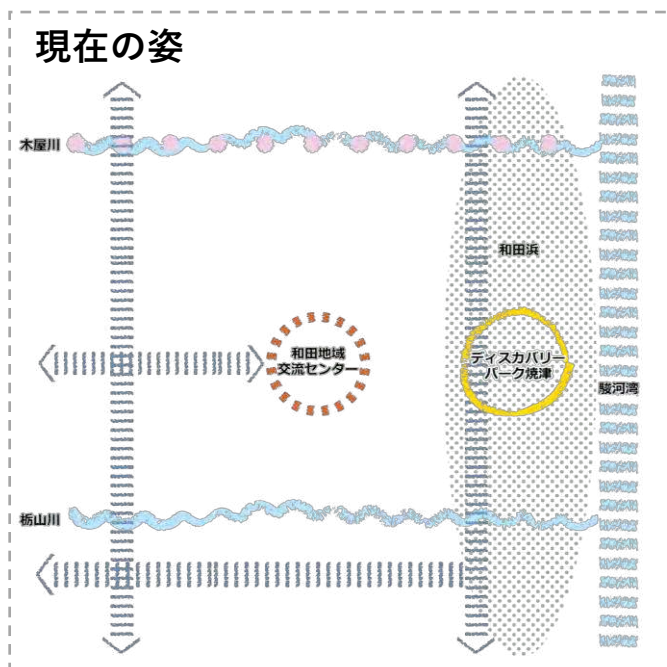
和田浜の良好な環境の形成と 歴史文化の継承・活用による 多文化交流の実現

和田浜の豊かな自然を活かして、良好な環境を形成するとともに、和田浜や松並木等の自然資源、あるいは和田神社や成道寺等の歴史・文化を活かし、継承しつつ、多様性を尊重した多文化交流を実現することで、誰もが暮らしやすい魅力的な環境の創出を図ります。



≪ 和田地域未来デザイン ≫

現在の姿

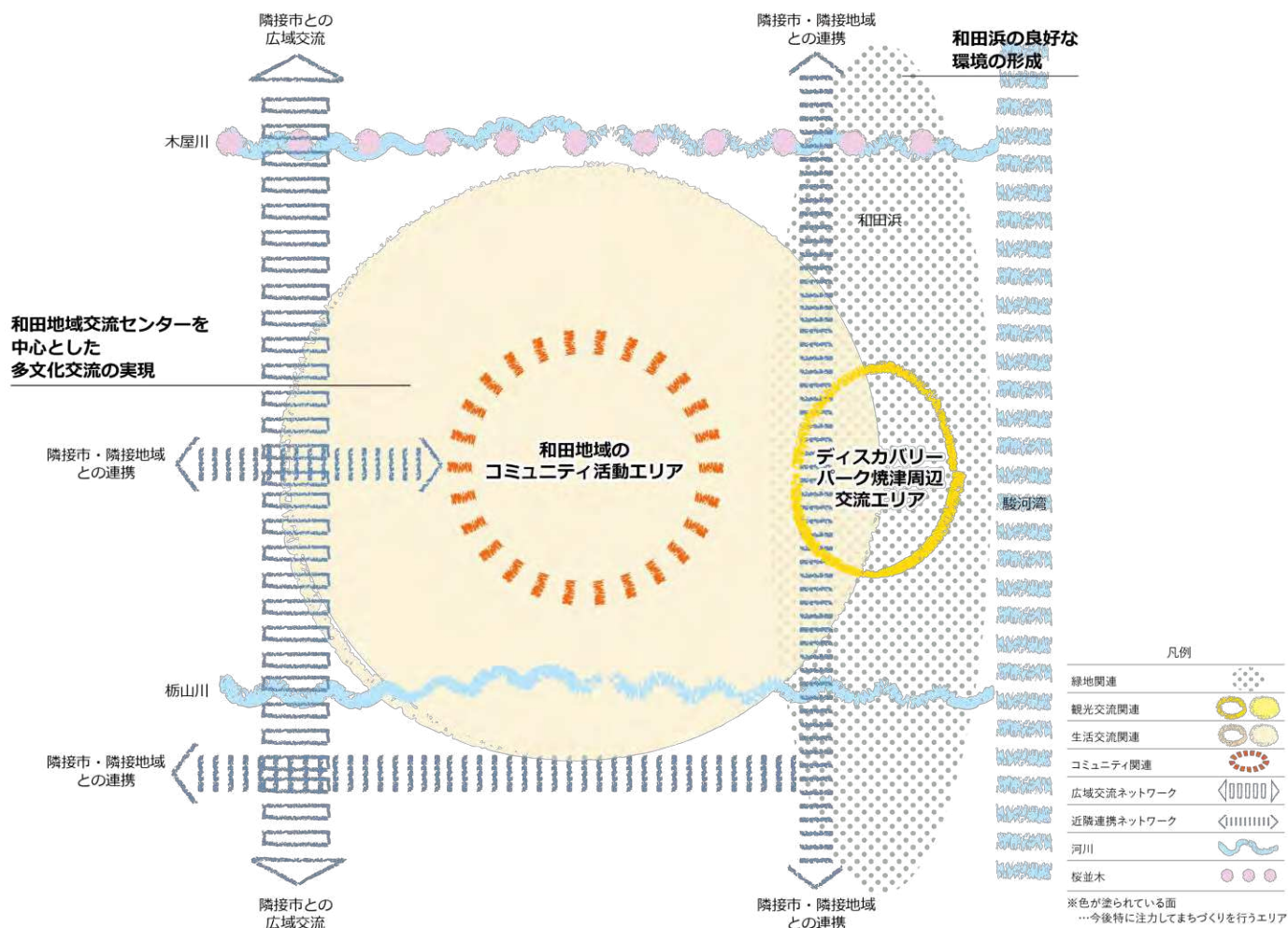


●和田地域のコミュニティ活動エリアを中心として、多文化交流が地域全体に広がり、ディスカバリーパーク焼津周辺交流エリア及び和田浜と接する配置とします。

●和田地域のコミュニティ活動エリアを中心として、広域・隣接市・隣接地域と連携するネットワークを構築します。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

和田浜海岸等の豊かな自然環境の保全

- ・和田浜海岸をはじめとして、田尻浜海岸や海沿いの松並木、木屋川の桜並木等、地域固有の自然資源が保全されています。地域住民を中心として、海岸でのイベントや松並木の散策を楽しんでいます。

自然、歴史・文化を活かした、多文化・多世代交流の実現

- ・和田地域交流センターは、地域住民による主体的な活用が進みました。世代や文化的背景にかかわらず、誰もが積極的に活動に参加し、笑顔で交流を楽しんでいます。また、和田地域交流センターを中心とした活動により、地域コミュニティが強化され、和田浜や松並木等の自然資源、和田神社や成道寺等の歴史・文化資源等、地域の特徴を活かした交流が活発に行われています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【和田地域全域】

- ・落ち着いた田園風景と調和した住環境が保全されつつ、公共交通が充実したことで、利便性の高い良好な生活環境が形成されています。
- ・低未利用地が活用され、田園風景と調和した新たな土地利用が進んでいます。また、新たな担い手への継承により、農業が維持されています。
- ・和田浜海岸や田尻浜海岸、海沿いの松並木や木屋川の桜並木等、地域固有の自然資源は適切に維持管理され、地域の名所として活用されています。
- ・国道 150 号や寄子橋大島線沿道は、近隣市町や隣接地域へのアクセス性の高さを活かして、新たな土地利用が進むなど、活力が創出されています。

【ディスカバリーパーク焼津周辺】

- ・ディスカバリーパーク焼津や水夢館は、イベントの拡充が進み、体験や学習、レジャー等のために、多様な利用者が訪れる拠点として活用されています。

【和田地域交流センター周辺】

- ・和田地域交流センターは、多様な利用者に配慮した仕組みやサポートが充実するとともに、地域住民の主体的な活動が展開されたことで、誰もが気軽に集まれる施設になっています。

●ヒトの姿

【和田地域全域】

- ・田園風景と調和した住環境が保全されつつ、公共交通の利便性が高まったことから、地域住民は快適に日常生活を送っています。
- ・和田浜海岸や田尻浜海岸、海沿いの松並木や木屋川の桜並木等、自然資源が保全されています。地域住民等が、海岸からの眺めを楽しんだり、松並木や桜並木沿いを散策したりしています。
- ・和田神社や成道寺等、地域の貴重な資源が受け継がれ、歴史を伝える場として継承されています。
- ・国道 150 号や寄子橋大島線沿道で、新たな土地利用が進んだことから、雇用が創出されました。自然豊かで落ち着きある住環境が評価され、市内外から通勤する人や、Uターンする若者等、移住定住や二地域居住が増加しています。

【ディスカバリーパーク焼津周辺】

- ・ディスカバリーパーク焼津や水夢館は、イベントの拡充や新たな取組が展開したことから、様々な体験を楽しむ親子連れ、レジャーを楽しむ若者や大人たち等、幅広い世代が訪れ、にぎわいがあふれています。

【和田地域交流センター周辺】

- ・和田地域交流センターは、地域住民が主体的に活用し、地域の農産物や歴史・文化を活かしたイベント、地域課題解決のための講座等が開かれています。世代や文化的背景にかかわらず、誰もが積極的に活動に参加し、笑顔で交流を楽しんでいます。
- ・外国につながる住民との交流が進み、先端技術等も取り入れながら、会話や交流を楽しんでいます。地域コミュニティのつながりが強化されたことから、多様な住民が積極的に地域活動に参加しています。

9) 大井川地域未来デザイン

地域の現状と将来推計、課題を踏まえた、大井川地域の未来デザインは次のとおりです。

(1) 地域未来デザインのコンセプト

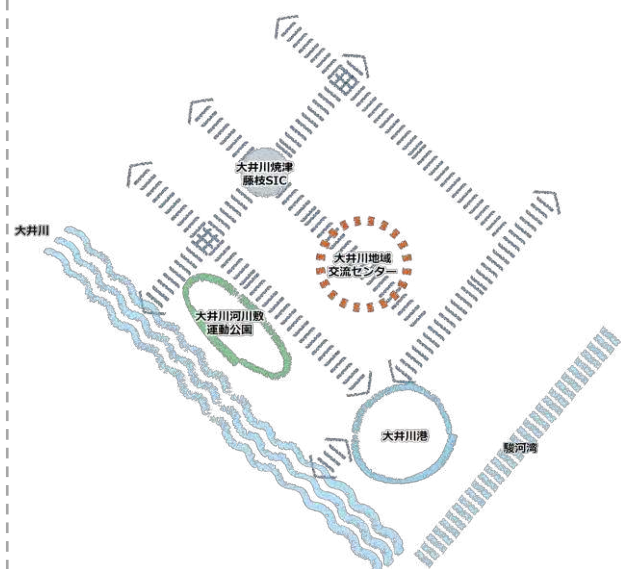
大井川港・SIC を活かした産業創出と スマイルライフ推進センター周辺エリアの 利便性向上による 快適な生活と豊かな交流の拡大

大井川港・大井川焼津藤枝 SIC を起点に、交通アクセス性の高さと豊富な地下水を強みとした活力ある産業創出を推進しつつ、豊かな水と緑を守りながら、スマイルライフ推進センターを中心として、生活利便性の向上を図り、快適な生活環境と豊かな交流の拡大を図ります。



《 大井川地域未来デザイン 》

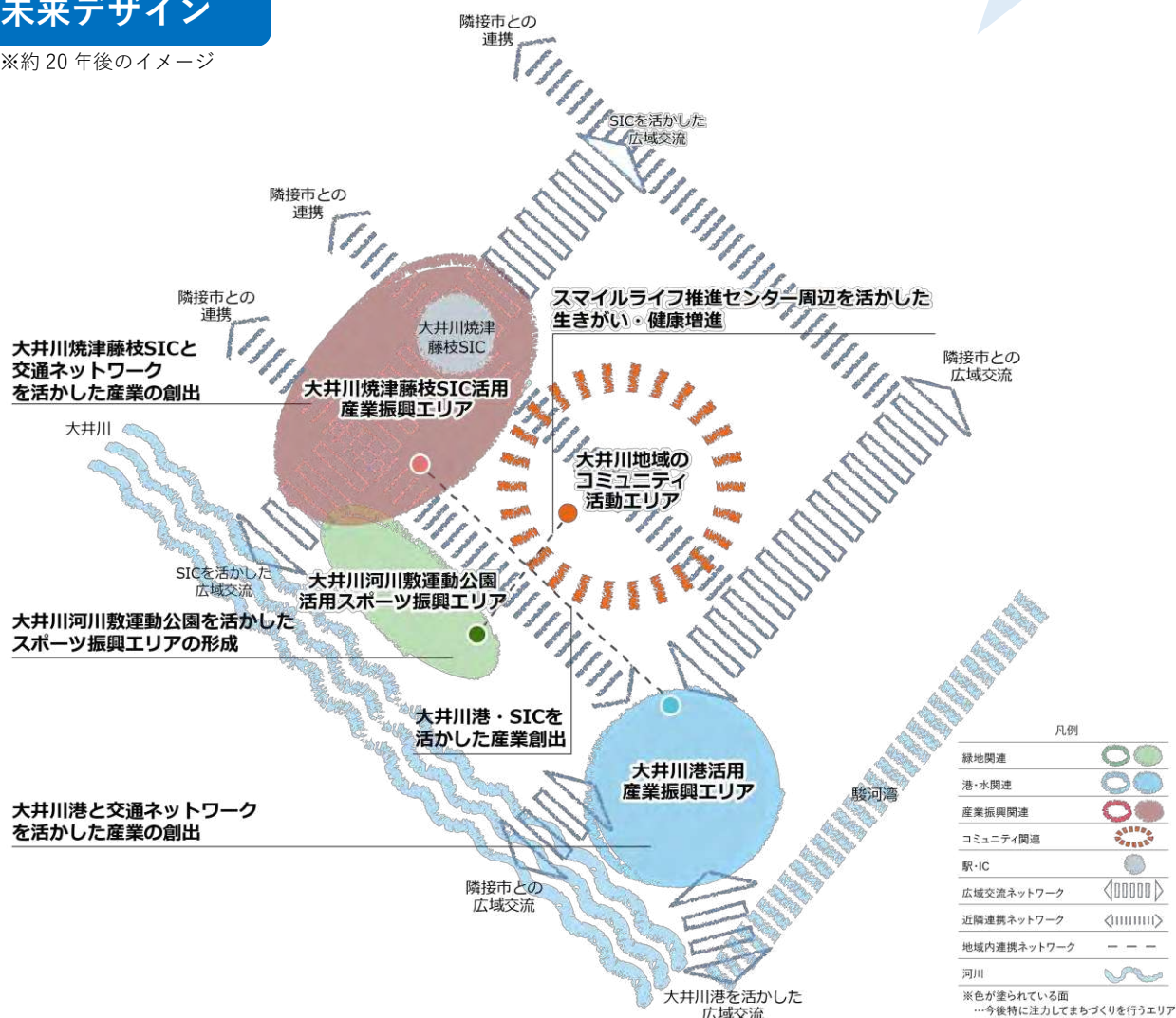
現在の姿



- 広域・隣接市と連携するネットワークの上に、大井川港活用産業振興エリアと、大井川焼津藤枝 SIC 活用産業振興エリアを形成するとともに、産業振興エリア間の連携を図ります。
- 中心部には、スマイルライフ推進センターや大井川地域交流センターを含む大井川地域のコミュニティ活動エリアを配置します。
- 大井川沿いには、大井川河川敷運動公園活用スポーツ振興エリアを配置し、大井川地域のコミュニティ活動エリアと連携のもと、生きがいを創出し、健康増進を図ります。

未来デザイン

※約 20 年後のイメージ



(2) 未来イメージ

< 未来イメージ像 >

大井川港・大井川焼津藤枝 SIC を活かした産業振興

- ・大井川港と大井川焼津藤枝 SIC 周辺では、東名高速道路等の幹線道路や港湾の利便性を活かして、国内外とのネットワークが形成されるとともに、豊富な地下水を強みとして、新たな産業立地や観光振興が進みました。国内外のあらゆる地域から人が集まり、多様な交流が生まれています。

スマイルライフ推進センターを中心とした生活・交流の中心地の形成

- ・水と緑豊かな環境のなかに、スマイルライフ推進センターを中心として、文化施設や子育て施設、福祉施設等が集積するとともに、地域内外へ移動する公共交通の利便性が高まりました。大井川地域交流センターでは多様な地域活動がより行われるようになり、誰もが気軽に集う、生活と交流の中心地が生まれています。

< 未来イメージのポイント >

●まちの姿

【大井川地域全域】

- ・スマイルライフ推進センター周辺に公共施設が集積するとともに、地域内外へ移動する公共交通の利便性が高まりました。
- ・落ち着いた田園風景や農業と調和した商業施設の立地、または大井川港や大井川焼津藤枝 SIC が形成する国内外とのネットワークを活かした新たな産業立地が進んだことで、良好な生活環境と産業振興が両立する地域となっています。
- ・幹線道路沿道では、近隣市町や隣接地域へのアクセス性の高さを活かして、新たな土地利用が進むなど、活力が創出されています。
- ・大井川地域特有の豊富な地下水は、貴重な資源として産業振興へ寄与するだけでなく、地域住民が湧水に親しめるように、幅広く活用されています。
- ・スマイルライフ推進センターや潮風グリーンウォーク、大井川河川敷運動公園は、健康増進のために、地域住民に利用されています。

【大井川焼津藤枝 SIC 周辺】

- ・大井川焼津藤枝 SIC 周辺は、東名高速道路及び大井川港、富士山静岡空港等を活かした国内外との交通ネットワークと、地域資源が活用され、産業振興と観光交流が融合した拠点整備や産業立地が進み、大井川地域の新たな交流・にぎわいが創出されています。

【大井川港周辺】

- ・大井川港は、大井川焼津藤枝 SIC や国道 150 号等を活かし、国内外との交通ネットワークが強化されました。輸出入が拡大するなど、産業振興が進んでいます。

- ・クルーズ船の寄港に合わせて、港湾周辺の整備や飲食店等の集積が進んだことにより、港を活かした観光交流が創出され、国内外との窓口として魅力が高まっています。

【大井川河川敷運動公園周辺】

- ・大井川河川敷運動公園周辺においてはスポーツ施設の拡充が行われるとともに、利用しやすい仕組みが構築され、市内外から利用者が訪れるスポーツのエリアが形成されています。

【国道 150 号・志太東幹線沿道】

- ・国道 150 号や志太東幹線の沿道では、飲食店や地場産品を扱う店舗の立地が進んだことから、地域の生活利便性の向上と、経済活性化が進んでいます。

【スマイルライフ推進センター周辺】

- ・スマイルライフ推進センター周辺は、文化施設や子育て施設、福祉施設が集積し、市民生活の中心地として活用されています。
- ・大井川地域交流センターは、地域住民が主体的に活動できる拠点として、地域の誰もが気軽に集まり、交流できる施設になっています。また、近くの大井川防災広場は、地域住民等に憩いの場として利用されるなど、スマイルライフ推進センター周辺一帯が、地域住民のコミュニティ活動の拠点として活用されています。

●ヒトの姿

【大井川地域全域】

- ・生活利便性が高まるとともに、幹線道路沿道等における新たな産業立地の進行により、雇用が創出されました。併せて、子育て世帯や若者が暮らしやすい環境の構築、高齢者や障がい者のための福祉施設の充実や、魅力的な商業施設の立地が進んだことで、地域で暮らし続ける住民や、Uターンする若者等、移住定住・二地域居住が増加しています。
- ・大井川地域特有の豊富な湧水は、地域の象徴的な資源として活用され、子どもたちが湧水で遊んだり、地域住民が湧水の周りで安らいだりしています。
- ・潮風グリーンウォークや大井川河川敷運動公園には、豊かな自然や富士山への眺めを楽しみつつ散策する人や、運動する人が訪れています。
- ・地域コミュニティの活動が活発化したことや、地域の担い手として活躍する若者等の増加により、藤守の田遊びや吉永八幡宮のお祭り、子安神社のお祭り等、地域の貴重な資源が受け継がれ、歴史・文化を継承しています。

【大井川焼津藤枝 SIC 周辺】

- ・大井川焼津藤枝 SIC 周辺は、産業振興と観光交流が融合した拠点整備や産業立地が進んだことで、新たな交流・にぎわいが創出され、国内外から多くの人が訪れています。

【大井川港周辺】

- ・大井川港は、交通アクセス性や国内外との連携ネットワークが強化されたことから、あらゆる地域から人・モノが集まり、交流しています。
- ・クルーズ船や志太東幹線等の交通ネットワークを通じて、多くの人が訪れています。水産物を味わったり、釣りを楽しんだりするなど、国内外からの観光客でにぎわっています。

III 地域未来デザイン

【大井川河川敷運動公園周辺】

- ・大井川河川敷運動公園は、使いやすく、魅力あるスポーツ振興のエリアとなり、市内外のスポーツチームが訪れるとともに、地域住民も周辺の散策やジョギング等を行い、スポーツや健康づくりに親しんでいます。

【国道 150 号・志太東幹線沿道】

- ・国道 150 号や志太東幹線の沿道では、地域住民や移動中の観光客が立ち寄り、地場産品等を買求めたり、飲食店で食事したりする様子が見られます。

【スマイルライフ推進センター周辺】

- ・スマイルライフ推進センター周辺には、文化施設や子育て施設、福祉施設が集積していることから、公共交通を利用して、地域住民が訪れています。
- ・スマイルライフ推進センターには、市民講座のオンライン配信や、健康状態のセルフチェックをするために、市内各地から新元気世代が集まり、いきいきと過ごしています。
- ・大井川地域交流センターでは、地域住民が主体となった多様な活動が行われています。子どもから高齢者まで、誰もが集い、イベントや講座に参加しながら、気軽に交流を楽しんでいます。
- ・大井川防災広場は、日常的な利活用が進み、子どもや高齢者等が身体を動かしたり、地域住民が主体となったイベントを開催したりして、にぎわいがあふれています。

IV 焼津未来デザインの実現に向けて



1 焼津未来デザインの実現に向けて

1) 各種の計画や施策への反映

焼津未来デザインは、概ね 20 年先を見据えた本市の新たな都市づくりのための都市構造やまちづくりのあり方等を描いたものです。よって、焼津市総合計画や焼津市都市計画マスタープラン、あるいは今後策定される各種計画や実施する施策等は、焼津未来デザインの内容が反映されていることを確認します。

このような焼津未来デザインの位置づけを、市民・事業者・行政等が認識し、適切に活用していくことが求められることから、焼津未来デザインを周知徹底していきます。

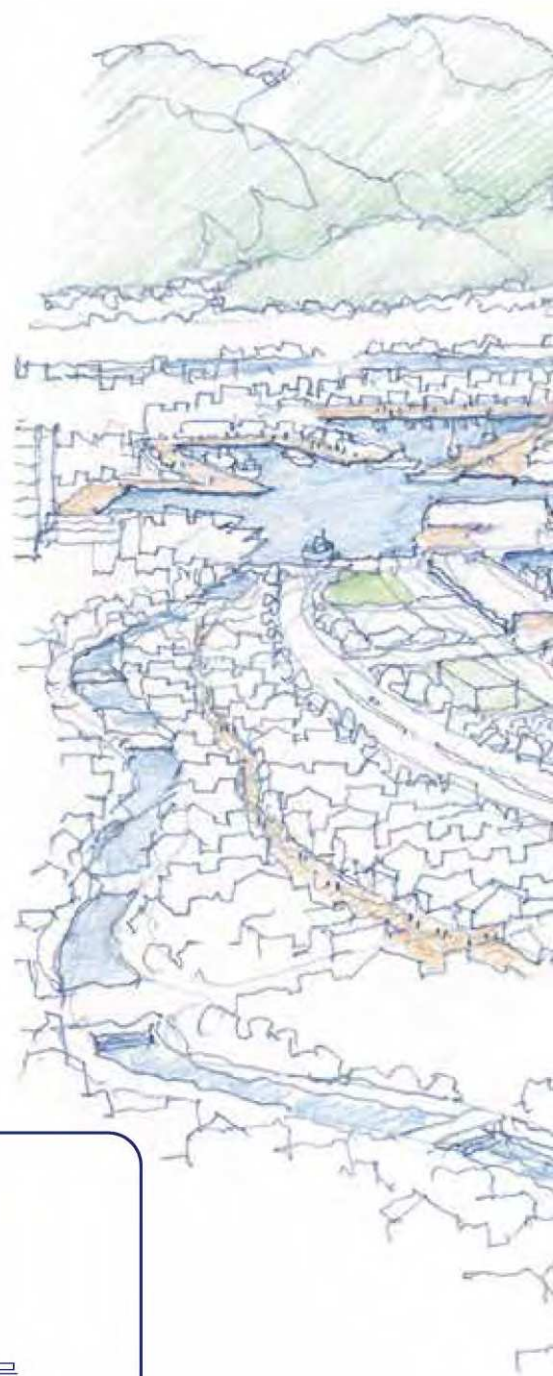
2) 広域連携・官民連携の推進

焼津未来デザインの実現のためには、広域連携や官民連携により、推進体制の強化を図ることが求められます。周辺市町や関係市町との連携を進め、情報共有や研究により、必要な体制の整備を図ります。また、民間企業等との積極的な連携を図りつつ、民間活力を積極的に活かし、質の高いまちづくりを進め、焼津未来デザインの実現を目指します。

3) 市民や市民団体への周知

焼津未来デザインの実現のためには、市民や市民団体の協力は不可欠です。

よって、焼津未来デザインの内容については、市 HP や SNS 等を活用して積極的に情報発信を進めるとともに、市民や市民団体に焼津未来デザインの内容の周知を図りつつ、本市に関わる全ての者が一体となり、焼津未来デザインの実現を目指します。



焼津未来デザイン

発行日：令和7年3月

発 行：焼津市

編 集：焼津市 行政経営部 政策企画課

静岡県焼津市本町二丁目 16 番 32 号

TEL：054-626-2141 FAX：054-627-9334